

2022年9月新聞書評に掲載された本



三國シェフのベスト・レシピ 136～スーパーの食材でフランス家庭料理をつくる～ 永久保存版

三國 清三 著
KADOKAWA

「材料2つのスープ」「フライパンでローストチキン」「つなぎいらずのガレット」など、フレンチの巨匠・三國シェフが、YouTube で公開した簡単に作れるフランス家庭料理 136 品を紹介。お手頃ワインのペアリングつき。

産経新聞 2022/09/03

2021.12./ 159p
978-4-04-605498-2

¥1,760 [税込]



絶景温泉ひとり旅そろそろソロ秘湯～令和最新版“湯界遺産”ガイドブック～

渡辺 裕美 著
小学館

国内外 2500 か所以上の秘湯を巡った著者による秘湯探検記。孤島に湧く野湯から、ひとり泊できるマニアックな宿まで、「ソロでいくべき旅」にこだわった 66 湯を紹介する。データ:2022年3月現在。

産経新聞 2022/09/04

2022.4./ 159p
978-4-09-311507-0

¥1,430 [税込]



国鉄～「日本最大の企業」の栄光と崩壊～(中公新書 2714)

石井 幸孝 著
中央公論新社

1949年設立の国鉄は戦後の高度成長を支えたが、交通手段の多様化により経営は悪化、1987年に分割民営化された。国鉄の歴史に何を学ぶか。JR九州初代社長が、国鉄の誕生、発展、そして衰退を語る。

産経新聞 2022/09/04

2022.8./ 4p,382p
978-4-12-102714-6

¥1,210 [税込]



進化を超える進化～サピエンスに人類を超越させた4つの秘密～

ガイア・ヴィンス 著
文藝春秋

人間は自分たちを創造した環境を自ら作り変え、生物進化を超え、超人類になろうとしている。「文化進化」というかつてない切り口で人類史を論じる。2020年英国王立協会サイエンス・ブック賞最終候補作。

産経新聞 2022/09/04

2022.6./ 404p
978-4-16-391553-1

¥2,750 [税込]



- ご注文の際には、タイトル・出版社名・価格のほか、ISBN も併せてお知らせください。
- 原価の改定、為替相場の変動などの理由により価格を変更場合がございます。予めご了承の程お願い申し上げます。
- ご注文、ご照会には弊社本・支店・営業部(課)までお申し付けください。
- 表示価格は2022年10月時点での税込み価格です。



建築家の解体(ちくま新書 1660)

松村 淳 著
筑摩書房

ブルデューの理論を用いて、建築家という職業がつくられていくプロセスを描写するとともに、解体していく建築家像の軌跡をたどる。フィールドワークの知見を盛り込み、「街場の建築家」という今後の可能性も示す。

産経新聞 2022/09/04

2022:6./ 316p
978-4-480-07488-1
¥1,078 [税込]



情無連盟の殺人

浅ノ宮 遼/眞庵 著
東京創元社

徐々に感情が失われていく病「アエルズ」に罹患した元麻酔科医・伝城は、アエルズ患者8名が共同生活を送る<情無連盟>から加入の誘いを受ける。見学に訪れていたさなか、連盟員の1人が殺害され…。本格犯人当て長編。

産経新聞 2022/09/04

2022:7./ 285p
978-4-488-02872-5
¥2,090 [税込]



その本は

ヨシタケ シンスケ/又吉 直樹 著
ポプラ社

本の好きな王様が、2人の男を城に呼び、「世界中をまわって「めずらしい本」の話を聞いてきてくれ」と言った。旅に出た2人の男は…。又吉直樹とヨシタケシンスケによる、笑えて泣けて胸を打たれる、本にまつわる物語。

産経新聞 2022/09/04

2022:7./ 192p
978-4-591-17432-6
¥1,650 [税込]



戦国武将を癒やした温泉～名湯・隠し湯で歴史ロマンにつかる～

上永 哲矢 著
山と溪谷社

豊臣秀吉が気持ちよさのあまり眠った温泉、武田信玄が公認した本物の隠し湯…。戦国武将を癒やした全国各地の温泉を紹介する。幕末の志士や歴史作家ゆかりの温泉も収録。データ:2021年10月現在。

産経新聞 2022/09/04

2021:11./ 191p
978-4-635-82362-3
¥1,980 [税込]



クリエイティブサウナの国ニッポン

こばやし あやな 著
学芸出版社

サウナブームに沸く日本。その現象を一步引いて観察すると、施設も歴史も愛好家も、活気とクリエイティビティに溢れている。サウナの本場・フィンランドのサウナ文化研究家が、日本サウナのオリジナリティを徹底解剖する。

産経新聞 2022/09/04

2021:12./ 174p
978-4-7615-2802-7
¥2,750 [税込]





男から女を創る～「女装紳士」メイク師の記録～

井上 今里 著
桜山社

女装メイクをする喜びと同居する孤独、偏見、不安、葛藤、挫折。メイクで笑顔になった人を見て、わたしは初めて自分を取り戻した。女装体験の世界を生み出したメイク師が、女装体験提供店起業までの軌跡とこれからを綴る。

産経新聞 2022/09/04

2022:6./ 218p
978-4-908957-20-8
¥1,870〔税込〕



レペゼン母

宇野 碧 著
講談社

梅農家を営むおかんの唯一の気がかりは、借金まみれのダメ息子・雄大のこと。ある日、偶然にも雄大がラップバトルの大会に出場することを知り、明子はマイクを握り立ち上がる…。『小説現代』掲載を書籍化。

産経新聞 2022/09/04、日本経済新聞 2022/09/24

2022:8./ 283p
978-4-06-527646-4
¥1,540〔税込〕



フィンランド虚像の森

ペッカ・ユンッティ／アンナ・ルオホネン／イェンニ・ライナ 著
新泉社

フィンランドは世界有数の林業国家。持続可能な林業を推進していると言われるが、森林施業が機能しているのは南部だけで、北部は木が全く生えてこない荒れ地がひろがる。そんなフィンランドの森と林業の実態について告発する。

産経新聞 2022/09/04、日本経済新聞 2022/09/24

2022:8./ 453p
978-4-7877-2204-1
¥3,520〔税込〕



昭和の参謀(講談社現代新書 2668)

前田 啓介 著
講談社

陸軍大学校を優秀な成績で卒業し、右肩から参謀懸章をさげ、軍の中核で活躍した参謀たち。彼らはどのような人生を歩んだのか。石原莞爾、辻政信、瀬島龍三ら「日本の頭脳」たちの栄光と蹉跌を、家族などの証言から描く。

産経新聞 2022/09/10

2022:7./ 444p
978-4-06-528223-6
¥1,430〔税込〕



22世紀の民主主義～選挙はアルゴリズムになり、政治家はネコになる～(SB新書 586)

成田悠輔 著
SBクリエイティブ

民主主義が意識を失っている間に手綱を失った資本主義は加速している。私たちはどこを目指せばいいのか？ 民主主義との闘争、逃走、構想…。選挙や民主主義をどうデザインすればいいかを考え直し、色々な改造案を示す。

産経新聞 2022/09/10、朝日新聞 2022/09/10

2022:7./ 255p
978-4-8156-1560-4
¥990〔税込〕





「ヤングケアラー」とは誰か～家族を“気づかう”子どもたちの孤立～(朝日選書 1031)

村上靖彦 著
朝日新聞出版

長期脳死の兄の「身代わり」として、親の前で頑張ってみせる子。ろう者の母親を手話通訳するうちに「私」が消えていく子…。介護や家事労働だけが「ケア」ではない。ケアする子どもたちが体験する孤立を「語り」から考える。

産経新聞 2022/09/11

2022:8./ 346p
978-4-02-263121-3
¥1,870〔税込〕



中村吉右衛門舞台に生きる～芸に命を懸けた名優～

中村 吉右衛門 著
小学館

昭和～令和の歌舞伎に大きな足跡を残した中村吉右衛門。晩年の舞台や楽屋での姿を記録した写真、雑誌『本の窓』に掲載した随筆、当たり役の数々について語った芸談、自身の手による絵画作品を通して、その芸と人柄を辿る。

産経新聞 2022/09/11

2022:9./ 246p
978-4-09-388872-1
¥4,950〔税込〕



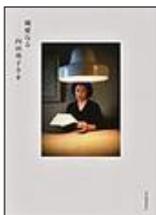
水平線

滝口 悠生 著
新潮社

祖父母の故郷・硫黄島を墓参で訪れたことがある妹に、見知らぬ男から電話がかかってきた頃、兄は不思議なメールに導かれ船に乗った…。枝分かれする時間、交差する人生を映し出す長篇小説。『新潮』連載を単行本化。

産経新聞 2022/09/11

2022:7./ 503p
978-4-10-335314-0
¥2,750〔税込〕



親愛なる向田邦子さま

森繁 久彌 著
河出書房新社

1981年8月、向田邦子、飛行機事故にて死去(享年51)。衝撃、悲嘆、慟哭から、時を経て、思い出話へ…。森繁久彌、倉本聰、久世光彦、山口瞳、水上勉、黒柳徹子らが綴った24編を収録。

産経新聞 2022/09/11

2022:8./ 198p
978-4-309-03060-9
¥1,782〔税込〕



「毒親」って言うな!

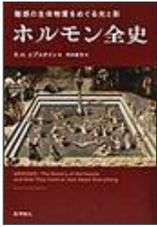
斎藤学 著
扶桑社

自分の親が毒親だったと気づくことは人生をやり直すための出発点。毒親のせいにしては、自分の人生が歩めません。もう毒親と言うのはやめませんか? 未来を取り戻し、その先に進むために、毒親からの卒業を促す一冊。

産経新聞 2022/09/11

2022:2./ 253p
978-4-594-09056-2
¥1,540〔税込〕





ホルモン全史～魅惑の生体物質をめぐる光と影～

R. H. エプスタイン 著

化学同人

ヒトが生命活動を営むために必要不可欠であるホルモンに光をあてる。ホルモンの存在や機能がわかるまでの科学史をひもとき、特に注目に値するホルモンの働きや最新研究を紹介する。

産経新聞 2022/09/11

2022:8/ 3p,349p
978-4-7598-2083-6

¥2,860〔税込〕



東京四次元紀行

小田嶋隆 著

イースト・プレス

稀代のコラムニストがはじめて書いた、東京 23 区と周辺に散在する街について綴ったショートストーリー集。「残骸-新宿区」「穴-墨田区」など、全 32 編を収録。『月刊サイゾー』ほか掲載をもとに書籍化。

産経新聞 2022/09/11

2022:6/ 301p
978-4-7816-2102-9

¥1,650〔税込〕



日中友好侵略史

門田隆将 著

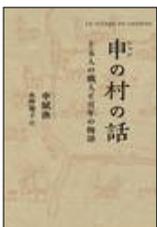
産経新聞出版

したたかな中国共産党は、さまざまな工作を日本、台湾、全世界で展開している。ランの花、有名女流作家、創価学会、日本の権力闘争、贖罪意識、巨大市場...あらゆるルート、手法を用いた「友好」という名の侵略を明らかにする。

産経新聞 2022/09/11

2022:9/ 382p
978-4-8191-1417-2

¥1,760〔税込〕



申の村の話～十五人の職人と百年の物語～

申 賦漁 著

アストラハウス

キリスト教に改宗し先祖の位牌を焼く瓦職人、日本軍がきた村で床屋が起こした驚愕の事件、朝鮮戦争から戻った孤独な彫物師の秘められた恋...。中国・江南を舞台に、百年の歴史を映し出す、名もなき村人たちの姿を描く。

産経新聞 2022/09/11

2022:9/ 365p
978-4-908184-36-9

¥2,420〔税込〕



ウクライナ戦争と世界のゆくえ(U.P.plus)

池内 恵／宇山 智彦／川島 真／小泉 悠／鈴木 一人／鶴岡 路人／森 聡 著

東京大学出版会

ロシア、欧州、アメリカ、中国、中央アジア...。ウクライナ戦争が世界に突きつけた様々な課題や問題について、気鋭の研究者が最新の知見をもとに、多角的かつ「変わらないものと変わりつつあるもの」に焦点を当てて分析する。

産経新聞 2022/09/17

2022:8/ 128p
978-4-13-033305-4

¥1,870〔税込〕





オリーブの実るころ

中島 京子 著

講談社

斜向かいに越してきた老人には、品のいい佇まいからは想像もできない、愛した人を巡る壮絶な過去があって…。表題作をはじめ、結婚と家族と、真実の愛をめぐる劇的で不思議な6つの物語を収録。『小説現代』掲載を書籍化。

産経新聞 2022/09/18

2022:6./ 203p
978-4-06-527950-2

¥1,760〔税込〕



此の世の果ての殺人

荒木 あかね 著

講談社

小惑星「テロス」が日本に衝突することが発表され世界は大混乱に陥るが、小春は、夢を叶えるため淡々と自動車の教習を受け続けている。年末、ある教習車のトランクで女性の死体を発見し、元刑事の教官と謎解きを始め…。

産経新聞 2022/09/18

2022:8./ 352p
978-4-06-528920-4

¥1,815〔税込〕



英語教育論争史(講談社選書メチエ 771)

江利川 春雄 著

講談社

早く始めればいいのか? しゃべればいいのか? 明治から100年以上続く英語教育論争。加藤周一の義務化反対論、筑紫哲也・松本道弘と中村敬の「英語帝国主義論争」など、英語教育のあり方をめぐる真剣勝負を紹介する。

産経新聞 2022/09/18

2022:9./ 293p
978-4-06-529327-0

¥2,035〔税込〕



性と芸術

会田 誠 著

幻冬舎

これまでさまざまに波紋を呼んできた現代美術家・会田誠の作品「犬」は、なぜ描かれたのか。その存在の理由を自らの言葉で率直に綴る。ほか、『星星峡』『幻冬舎plus』掲載の「性」に関する文章も収録する。

産経新聞 2022/09/18

2022:7./ 212p
978-4-344-03983-4

¥1,760〔税込〕



かこさとし〜子どもたちに伝えたかったこと〜

かこ さとし/鈴木 万里/鈴木 愛一郎 著

平凡社

「ヒコー少年」と自らを呼んでいた絵本作家かこさとし。彼の青年期の絵画から、セゾメント活動時代の紙芝居や幻灯、さまざまな分野の絵本までを紹介する。2022年7~9月開催の展覧会の公式図録。

産経新聞 2022/09/18

2022:7./ 111p
978-4-582-20726-2

¥1,650〔税込〕





独裁者を倒せ～スペイン民主化の奇跡～

江口 義孝 著
三冬社

1973年、首相はETAに暗殺され、その2年後にはフランコ総統が死去。国王に即位したファン・カルロス一世は、アメリカと連携しつつ、民主化の政治プロセスを推し進め…。「スペインの奇跡」を追う。

産経新聞 2022/09/18

2022:8/ 380p
978-4-86563-087-9
¥1,430〔税込〕



鎌倉北条氏の女性たち

今井 雅晴 著
教育評論社

北条氏の女性たちはどう生きたか-。尼将軍・政子、頼朝の娘・大姫、義時の妻・姫の前、時政の妻・牧の方…。鎌倉幕府150年の歴史の中で、北条氏とともにあった17人の女性たちの生涯を描き出す。

産経新聞 2022/09/18

2022:6/ 317p
978-4-86624-061-9
¥1,760〔税込〕



ひとかけらの木片が教えてくれること～木材×科学×歴史～

田鶴寿弥子 著
淡交社

人がいかに木と向かい合ってきたのかを、ひとかけらの木片が教えてくれる-。仏像・神像、狛犬、歴史的建造物から入れ歯まで、様々な文化財に用いられた樹種を科学的な方法で同定し、「人と木の文化」を明らかにする。

産経新聞 2022/09/18、日本経済新聞 2022/09/24

2022:8/ 231p
978-4-473-04499-0
¥1,980〔税込〕



武蔵～残日の剣～

稲葉 稔 著
KADOKAWA

島原の乱に従軍し負傷したことで老いを実感し、終の棲家を求めた宮本武蔵。熊本藩主・細川忠利から客分として招かれた武蔵は、やがて、自らが究めてきた兵法の道を伝えるべく、靈巖洞に籠もり「五輪書」の執筆を始めて…。

産経新聞 2022/09/25

2022:8/ 359p
978-4-04-112754-4
¥2,200〔税込〕



ヘルンとセツ

田淵 久美子 著
NHK出版

明治23年、ニューヨークから来た作家ラフカディオ・ハーンと、武家の娘として生まれるが、明治維新により困窮の底に沈んでいたセツ。2人の奇跡の出会い・共同作業から「怪談」が生み出される過程をドラマチックに描く。

産経新聞 2022/09/25

2022:8/ 316p
978-4-14-005728-5
¥1,870〔税込〕





哲学の門前

吉川浩満 著

紀伊國屋書店出版部

著者が、日々の暮らしで生じる哲学との出会いや付き合いについてまとめた随筆集。自身の経験や見聞をもとに、哲学者や隣接分野の学者、作家たちの力を借りて考察する。山本貴光による「吉川浩満くんのこと」も収録。

産経新聞 2022/09/25

2022:8./ 269p
978-4-314-01193-8

¥1,980〔税込〕



録音された誘拐

阿津川辰海 著

光文社

探偵事務所の所長・大野紘が誘拐された!? 耳が良いのがとりえの助手・山口美々香は様々な手掛かりから、微妙な違和感を聞き逃さず真実に迫るが…。短編集「透明人間は密室に潜む」所収の「盗聴された殺人」続編。

産経新聞 2022/09/25

2022:8./ 429p
978-4-334-91479-0

¥2,090〔税込〕



絶望をどう生きるか

清水 研 著

幻冬舎

20代、30代のときに突然がん告知を受け、並々ならぬ困難にぶち当たったのち、今現在を精一杯生きている6人を紹介。がん専門の精神科医が、「死を意識しながら生きる」ということについて語る。

産経新聞 2022/09/25

2022:8./ 233p
978-4-344-03989-6

¥1,320〔税込〕



東アジアからみた「大化改新」(歴史文化ライブラリー 555)

仁藤 敦史 著

吉川弘文館

「大化改新」は東アジア世界のなかでどのように位置づけられるのか。膨張する隋唐帝国への対応を迫られる高句麗・百済・新羅の動向と外交政策の対立をもとに、古代日本の一大画期を新たな視点から再検討する。

産経新聞 2022/09/25

2022:9./ 6p,213p
978-4-642-05955-8

¥1,870〔税込〕



葬儀!

ジュリエット カズ 著

柏書房

チベットの天葬、スコットランドの死体金庫…。あらゆる時代と場所の葬儀のなかから、死に対する生者の行為が特殊な例を選び、人類学や考古学の知見とともに紹介する。人類学者による、さらに深く学ぶためのガイド付き。

産経新聞 2022/09/25

2022:7./ 167p,6p
978-4-7601-5459-3

¥1,980〔税込〕





椎の若葉に光あれ～葛西善蔵の生涯～(岩波現代文庫)

鎌田 慧 著
岩波書店
朝日新聞 2022/09/03

2006:5./ 268p
978-4-00-603133-6
¥1,100〔税込〕



月夜の森の梟

小池真理子 著
朝日新聞出版
作家夫婦は病と死に向きあい、どのように過ごしたのか。残された著者は、過去の記憶の不意うちに苦しみ、その後を生き抜く。心の底から生きることを励ます喪失エッセイ。『朝日新聞』連載を単行本化。

2021:11./ 172p
978-4-02-251800-2
¥1,320〔税込〕



朝日新聞 2022/09/03



津軽 改版(角川文庫 た 1-8)

太宰 治 著
KADOKAWA
昭和 19 年、津軽風土記の執筆を依頼され、3 週間にわたって津軽半島を一周した太宰治。自己を見つめ直し、宿命の地・津軽への思いを素直に綴った名紀行文。町田康による解説も収録する。

2018:6./ 218p
978-4-04-106794-9
¥572〔税込〕



朝日新聞 2022/09/03



アナベル・リイ

小池 真理子 著
KADOKAWA
1978 年、悦子は千佳代と特別な友人となった。しかし、千佳代は飯沼と入籍して間もなく他界してしまう。悦子が飯沼への恋ごころを解き放つと、彼女の亡霊が現れるようになり-。『小説野性時代』連載を単行本化。

2022:7./ 353p
978-4-04-111546-6
¥1,980〔税込〕



朝日新聞 2022/09/03



最小にして人類最大の宿敵 病原体の世界～歴史をも動かすミクロの攻防～(ブルーバックス B-2211)

旦部 幸博／北川 善紀 著
講談社
コロナ、梅毒、痘瘡、麻疹、ノロ、狂犬病、狂牛病...。人類の生活を脅かし、歴史まで変えてしまう多様な病原体たちが、進化の過程で身に付けた、さまざまな感染戦略、生存戦略を紹介する。

2022:8./ 262p
978-4-06-529078-1
¥1,100〔税込〕



朝日新聞 2022/09/03



犬のかたちをしているもの(集英社文庫 た 99-1)

高瀬 隼子 著
集英社

卵巣の病気を患ってから益々セックスが嫌になった薫。そんな薫に郁也は「好きだから大丈夫」と言う。だが、ある日呼び出され、彼の子を妊娠した女性から子どもをもらってくれないかと提案されて...

朝日新聞 2022/09/03

2022.8./ 152p
978-4-08-744427-8
¥550〔税込〕



海猫ツリーハウス

木村 友祐 著
集英社

25歳の亮介は、ファッション・デザイナーを目指しながらも、実家の農業を手伝うかたわら、「親方」の元でツリーハウス作りに精を出す毎日。だが、兄・慎平の帰郷で均衡が崩れはじめ...。『すばる』に掲載したものを単行本化。

朝日新聞 2022/09/03

2010.2./ 133p
978-4-08-771333-6
¥1,047〔税込〕



沈黙 改版(新潮文庫)

遠藤 周作 著
新潮社

島原の乱が鎮圧されて間もないころ、キリシタン禁制の厳しい日本に潜入したポルトガル人司祭ロドリゴは、日本人信徒たちに加えられる残忍な拷問と悲惨な殉教のうめき声に接して苦悩し、ついに背教の淵に立たされる……。神の存在、背教の心理、西洋と日本の思想的断絶など、キリスト信仰の根源的な問題を衝き、〈神の沈黙〉という永遠の主題に切実な問いを投げかける長編。

朝日新聞 2022/09/03

2003.5./ 312p
978-4-10-112315-8
¥649〔税込〕



晴子情歌<上>(新潮文庫 た-53-31)

高村 薫 著
新潮社

遠洋漁船に乗り組む息子のもとに大量に届き始めた母・晴子からの手紙。そこにはみずみずしい15歳の少女がおり、未来の母がいた。息子・彰之は初めて母という名の海へ漕ぎ出していく...

朝日新聞 2022/09/03

2013.5./ 432p
978-4-10-134723-3
¥737〔税込〕



晴子情歌<下>(新潮文庫 た-53-32)

高村 薫 著
新潮社

戦前から戦後へ続く母・晴子の回顧と独白は、彰之自身の記憶の呼び声となって波のごとく重なり、うねり合う。母はなぜこうも遠いのか。母とはいったい何者か。薄れゆく近代日本の記憶と、或る母子の肖像。

朝日新聞 2022/09/03

2013.5./ 412p
978-4-10-134724-0
¥737〔税込〕





いとみち(新潮文庫 こ-52-2)

越谷 オサム 著
新潮社

ちっこくて泣き虫で、濃厚すぎる津軽弁の相馬いと。変わりたいと思って始めたアルバイト先は「津軽メイド珈琲店」。日本代表クラスのドジっ娘・いととの進化が全速力で始まる!

朝日新聞 2022/09/03

2013:11./ 371p
978-4-10-135362-3

¥737〔税込〕



一汁一菜でよいと至るまで(新潮新書 950)

土井 善晴 著
新潮社

レストランで食べるものと区別し、家庭では簡素なものを食べればよい「一汁一菜」スタイルを築いた料理研究家・土井善晴。父と同じ道を歩み、家庭料理の斬新なスタイルを構築するまでの道のりを綴る。『波』連載を新書化。

朝日新聞 2022/09/03

2022:5./ 238p
978-4-10-610950-8

¥902〔税込〕



へんてこな生き物〜カラー版〜(中公新書ラクレ 771)

川端 裕人 著
中央公論新社

森の中を飛ぶ水生哺乳類アマゾンマナティ、手のひらサイズの巨大な虫…。常識を軽く超えてくる「へんてこ」な生き物たちを、新しい科学的なトピックもまじえながら楽しく紹介する。200枚超の撮り下ろし写真も掲載。

朝日新聞 2022/09/03

2022:8./ 302p
978-4-12-150771-6

¥1,320〔税込〕



中国減速の深層〜「共同富裕」時代のリスクとチャンス〜

福本 智之 著
日経BP社

不動産の下落、ハイテク分野の米中デカップリング…中国はどこまで減速するのか。世界経済への影響はどれほどのものか。詳細な現状分析を踏まえ、3つの予測シナリオを提示するとともに、日本企業の活路を探る。

朝日新聞 2022/09/03

2022:6./ 375p
978-4-296-11378-1

¥2,420〔税込〕



約束された移動(河出文庫 お27-4)

小川 洋子 著
河出書房新社

ハリウッド俳優Bの泊まった部屋からは、決まって1冊の本が抜き取られていた。Bからの無言の合図を受け取る客室係。こうして書棚の秘密はふたりだけのものになった…。6篇を収録した短篇集。

朝日新聞 2022/09/03

2022:8./ 233p
978-4-309-41911-4

¥748〔税込〕





ようきなやつら

岡田索雲 著
双葉社

【むかし、どこかに半分置き忘れてきたお化けの魂。ここにあったのか。京極夏彦】 WEB上で話題騒然の岡田索雲妖怪読切シリーズ、待望の単行本化！！描き下ろしの表題作『ようきなやつら』40P収録！！怪異なのは、この物語か。それとも、我々が生きるこの世界か。

朝日新聞 2022/09/03

2022:8./ 220p
978-4-575-44022-5
¥880〔税込〕



奇跡の人(双葉文庫 は-26-02)

原田 マハ 著
双葉社

時は明治、青森県弘前。「盲目で、耳が聞こえず、口も利けない」少女のため、アメリカ帰りの旧幕臣の娘・安が教育係として招かれた。ふたりは苦難の道をゆく…。

朝日新聞 2022/09/03

2018:1./ 430p
978-4-575-52071-2
¥794〔税込〕



縁結びカツサンド(ポプラ文庫 ふ 9-1)

冬森 灯 著
ポプラ社

うらら商店街に佇む、昔懐かしいパン屋さん「ベーカリー・コテン」。人の悩みに寄り添い奮闘する三代目・和久が、見つけた答えとは-。とびきりあったかな“縁”の物語。「もうひとつの縁結びカツサンド」を加えて文庫化。

朝日新聞 2022/09/03

2022:8./ 316p
978-4-591-17471-5
¥814〔税込〕



まだ、法学を知らない君へ～未来をひらく13講～

東京大学法学部「現代と法」委員会 編
有斐閣

今の社会の問題に法学はどう対峙しているのか、法学は社会でどう役に立っているのか。デジタル社会、同性カップル、非正規格差など、社会が直面する先端の問題を通して解説する。東京大学法学部教員による講義をもとに書籍化。

朝日新聞 2022/09/03

2022:7./ 10p,237p
978-4-641-12636-7
¥1,980〔税込〕



挿絵でよみとくグリム童話(早稲田大学学術叢書 057)

西口 拓子 著
早稲田大学出版部

19世紀初頭～1940年代にドイツや日本で刊行されたグリム童話の絵本を対象に、そこに掲載された多数の挿絵を分析。西洋の挿絵と日本の挿絵、グリム童話と森鷗外などの意外な関係性を明らかにする。

朝日新聞 2022/09/03

2022:6./ 382p
978-4-657-22701-0
¥4,400〔税込〕





6カ国転校生ナージャの発見

キリーロバ・ナージャ 著
集英社インターナショナル

両親の転勤で世界6カ国(ロシア、日本、イギリス、フランス、アメリカ、カナダ)の地元校で教育を受けた著者ナージャが、それぞれの国での体験&発見を紹介。「ふつう」がひっくり返り、世界の見え方が変わる本。

朝日新聞 2022/09/03

2022:7./ 163p
978-4-7976-7413-2
¥2,420〔税込〕



フランソワーズ・パストル〜遠藤周作パリの婚約者〜

桑原真夫 著
論創社

留学中の遠藤周作がパリで出会った“ヨーロッパの女神”、フランソワーズ。日本と数奇な縁で結ばれたその短い生涯を、2人が交わした書簡と遺族らへの丹念な取材からあざやかに浮かび上がらせる。未公開の遠藤の恋文も収録。

朝日新聞 2022/09/03

2022:7./ 247p
978-4-8460-2185-6
¥2,640〔税込〕



Vortex

川田 喜久治 著
赤々舎

写真家・川田喜久治が Instagram のアカウントにアップロードした膨大なデジタル作品群から厳選。現代都市の混沌に向けられた比類なき視線と精神性が凝集した写真集。

朝日新聞 2022/09/03

2022:7./ 543p
978-4-86541-149-2
¥8,800〔税込〕



夜の道標

芦沢 央 著
中央公論新社

1996年、横浜市内で塾の経営者が殺害された。被害者の元教え子が被疑者として捜査線上に浮かぶが、事件発生から2年経っても足取りはつかめず…。長篇ミステリー。『読売新聞オンライン』連載に加筆修正し書籍化。

朝日新聞 2022/09/03、東京・中日新聞 2022/09/18

2022:8./ 351p
978-4-12-005556-0
¥1,815〔税込〕



遠い声をさがして〜学校事故をめぐる<同行者>たちの記録〜

石井 美保 著
岩波書店

2012年夏、小学校のプールで一人の女の子が亡くなった。なぜ事故は起きてしまったのか。事故後の道程に同行した文化人類学者が、多声的な声の連なりを通して、亡き人とともに生きるこの意味と可能性を考える。

朝日新聞 2022/09/03、読売新聞 2022/09/04、日本経済新聞 2022/09/10

2022:6./ 9p,327p
978-4-00-061539-6
¥2,970〔税込〕





よみがえる与謝野晶子の源氏物語

神野藤 昭夫 著
花鳥社

与謝野晶子の生涯にわたる古典翻訳のなかで、「新訳源氏物語」と「新新訳源氏物語」はその象徴的顕現である。翻訳はどのようにして完成したのか。新資料の数々をもとに訳業の具体像を明らかにする。

朝日新聞 2022/09/03、日本経済新聞 2022/09/03

2022:7./ 15p,462p
978-4-909832-58-0

¥4,180〔税込〕



成長の臨界〜「飽和資本主義」はどこへ向かうのか〜

河野 龍太郎 著
慶應義塾大学出版会

現在の社会システムのまま、同じような経済活動を続けていけば、いずれ限界=臨界が訪れる。現状が維持不能なら、次に来る秩序はどう形成されるのか。エコノミストが現況を伶俐に分析し、迫り来る次の世界を展望する。

朝日新聞 2022/09/03、日本経済新聞 2022/09/10

2022:7./ 26p,518p
978-4-7664-2834-6

¥2,750〔税込〕



あなたはどこで死にたいですか?〜認知症でも自分らしく生きられる社会へ〜

小島 美里 著
岩波書店

認知症になったら、必要な介護サービスを受けられる? “在宅ひとり死”はおすすめできない? 認知症でも安心して自分らしく生きるために必要なサービス、リアルな介護費用、介護保険制度の限界と福祉の今後を考える。

朝日新聞 2022/09/10

2022:7./ 13p,208p,7p
978-4-00-061550-1

¥2,310〔税込〕



ヨーロッパの言語(岩波文庫 33-699-1)

アントワーンヌ・メイエ、西山 教行 著
岩波書店

比較言語学の巨人メイエが、言語の統一と分化に関わる要因を、文明、社会、歴史との緊密な関係において考察。ヨーロッパの言語史を先史時代から第一次世界大戦直後まで射程に収め、国家や民族との関係などに着目して分析する。

朝日新聞 2022/09/10

2017:9./ 549p,19p
978-4-00-336991-3

¥1,452〔税込〕



ミャンマー現代史(岩波新書 新赤版 1939)

中西 嘉宏 著
岩波書店

2021年の軍事クーデター以降、厳しい弾圧が続くミャンマー。軍の目的は? アウンサンサーチャーはなぜクーデターを防げなかった? 暴力と分断が連鎖する現代史の困難が集約されたその歩みを構造的に読み解く。

朝日新聞 2022/09/10

2022:8./
12p,281p,17p
978-4-00-431939-9

¥946〔税込〕





姫君と侍女～明治東京なぞとき主従～(角川文庫 い116-1)

伊勢村 朱音 著

KADOKAWA

明治5年の東京。大店の娘で15歳の佳代は、旧大名深水家で風変わりな雪姫の侍女として奉公していた。だがその春、お家の一大事が起き、雪姫は頭脳で立ち向かい、佳代も絵の才能を発揮し…。『カクヨム』掲載を書籍化。

朝日新聞 2022/09/10

2022:8./ 259p
978-4-04-112563-2

¥704〔税込〕



明治大正史<世相篇>(講談社学術文庫)

柳田 國男 著

講談社

毎日われわれの眼前に出ては消える事実のみによって、立派に歴史は書けるものだという著者が、明治大正の日本人の暮らし方、生き方を、民俗学的方法によって描き出した画期的な世相史。著者は故意に固有名詞を掲げることを避け、国に遍満する常人という人々が眼を開き耳を傾ければ視聴しうるもののかぎり、そうしてただ少しく心を潜めるならば、必ず思い至るであろうところの意見だけを述べたという。

朝日新聞 2022/09/10

1993:7./ 464p
978-4-06-159082-3

¥1,639〔税込〕



おいしいごはんが食べられますように

高瀬 隼子 著

講談社

職場でそこそこうまくやっている二谷、皆が守りたくなるような存在で料理上手な芦川、仕事ができがんばり屋の押尾。心をざわつかせる、仕事+食べもの+恋愛小説。『群像』掲載を単行本化。

朝日新聞 2022/09/10

2022:3./ 152p
978-4-06-527409-5

¥1,540〔税込〕



韓国併合～大韓帝国の成立から崩壊まで～(中公新書 2712)

森 万佑子 著

中央公論新社

朝鮮半島の地域研究を専門とする著者が、日韓双方の視点から韓国併合の軌跡と実態を描写。特に「大韓帝国が成立して崩壊していく過程」に注目し、今なお続く植民地の合法・不法論争についても記す。

朝日新聞 2022/09/10

2022:8./ 4p,264p
978-4-12-102712-2

¥946〔税込〕



N/A

年森 瑛 著

文藝春秋

松井まどか、高校2年生。うみちゃんと付き合い3か月。体重計の目盛りはしばらく、40を超えていない。優しさと気遣いの定型句に苛立ち、肉体から言葉を絞り出すともがく魂を描く。『文學界』掲載を単行本化。

朝日新聞 2022/09/10

2022:6./ 114p
978-4-16-391562-3

¥1,485〔税込〕





観相同心早瀬菊之丞(徳間文庫 徳間時代小説文庫 は31-14)

早見俊 著
徳間書店

人の性格や運命を判断する観相術の達人で、南町奉行所定町廻り同心でもある早瀬菊之丞。ある日、高級料亭で直参旗本が毒殺されたとの報せが。同心になって初の探索に、菊之丞は手下の岡っ引、薬研の寅蔵を連れて料亭へ向かう。

朝日新聞 2022/09/10

2022:8./ 298p
978-4-19-894750-7

¥792〔税込〕



鼻/外套/査察官(光文社古典新訳文庫)

ゴーゴリ、浦 雅春 著
光文社

朝日新聞 2022/09/10

2006:11./ 372p
978-4-334-75116-6

¥748〔税込〕



神奈川宿雷屋(光文社文庫 光文社時代小説文庫 な35-6)

中島要 著
光文社

雷屋の女中・お実乃は、宿泊客の世話が仕事だ。割高な雷屋に泊まるのは、癖の強いお客ばかり。一本気で働き者のお実乃はしょっちゅう振り回されている。ある日、客が謎の死を遂げ…。幕末の宿場町を舞台にした本格時代推理。

朝日新聞 2022/09/10

2022:8./ 313p
978-4-334-79404-0

¥748〔税込〕



向日性植物

李屏瑤 著
光文社

台北の女子高に入学した「私」は、先輩の小游に心を奪われる。戸惑いながらも淡い関係に踏み込んだ「私」だが、先輩の元恋人の存在を知り…。芥川賞作家・李琴峰の翻訳による、新時代のレズビアン小説。

朝日新聞 2022/09/10

2022:7./ 248p
978-4-334-91478-3

¥1,980〔税込〕



GE 帝国盛衰史～「最強企業」だった組織はどこで間違えたのか～

トーマス・グリタ/テッド マン 著
ダイヤモンド社

世界最大の総合電機メーカー、ゼネラル・エレクトリック(GE)は、なぜ、どのように凋落したのか。最強リーダーシップを誇った企業の成功と転落から、組織の隆盛と崩壊の全てを描く。

朝日新聞 2022/09/10

2022:7./ 494p
978-4-478-11524-4

¥2,200〔税込〕





加速する社会～近代における時間構造の変容～

ハルトムート・ローザ 著
福村出版

近代の技術革新は、なぜ人々を時間欠乏から解放しないのか？ 近代のパラドクスに隠された加速の論理を解明し、その文化的・構造的起源を探求。さらに個人・集団のライフスタイルへの影響や歴史経験の変化について分析する。

朝日新聞 2022/09/10

2022:7/
31p,522p,40p
978-4-571-41069-7
¥6,930〔税込〕



くだらないものがわたしたちを救ってくれる

キム ジュン 著
柏書房

長時間労働、低賃金、就職難にあえぎながら、他人の論文に打ちのめされたり励まされたり…。研究することの楽しみと苦しみを生き生きと描いた、「線虫」学者の科学エッセイ。

朝日新聞 2022/09/10

2022:7./ 173p
978-4-7601-5461-6
¥1,870〔税込〕



女性兵士という難問～ジェンダーから問う戦争・軍隊の社会学～

佐藤 文香 著
慶應義塾大学出版会

世界中の軍隊で女性兵士は数を増し、その役割を拡大し続けている。20余年の間に起こったさまざまな変化をふまえ、女性兵士に求められてきた役割と効果を、既存のジェンダー秩序を自明のものとし、批判的に検証する。

朝日新聞 2022/09/10

2022:7./ 294p,27p
978-4-7664-2835-3
¥2,640〔税込〕



亜鉛の少年たち～アフガン帰還兵の証言～ 増補版

スヴェトラーナ・アレクシエーヴィチ 著
岩波書店

「国際友好の義務を果たす」という政府の方針でアフガニスタンへ送り出されたソ連の若者たちは、亜鉛の棺に納められて帰国し、生きて戻った者も鉛のような心を抱えて苦しんでいた…。帰還兵、戦没者の家族らの肉声を綴る。

朝日新聞 2022/09/17

2022:6./ 7p,434p
978-4-00-061303-3
¥3,520〔税込〕



江戸漢詩選<上>(岩波文庫 30-285-1)

岩波書店

江戸時代に花開いた日本の漢詩から 320 首を選び、小伝や丁寧な語注と共に編んだアンソロジー。上は、幕初期から中期まで、藤原惺窩、林羅山、新井白石、荻生徂徠、菅茶山らの詩を収録する。

朝日新聞 2022/09/17

2021:1./ 469p
978-4-00-302851-3
¥1,320〔税込〕





江戸漢詩選<下>(岩波文庫 30-285-2)

岩波書店

江戸時代に花開いた日本の漢詩から 320 首を選び、小伝や丁寧な語注と共に編んだアンソロジー。下は、後期以降の柏木如亭や大窪詩仏、頼山陽、そして西郷隆盛ら幕末の志士の詩も収録する。

朝日新聞 2022/09/17

2021:3./ 492p
978-4-00-302852-0

¥1,320〔税込〕



江戸漢詩の情景～風雅と日常～(岩波新書 新赤版 1940)

揖斐 高 著

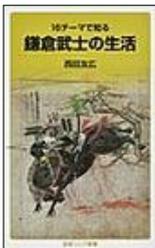
岩波書店

江戸の人びとにとって、漢詩文は、日々の暮らしのさまざまな想い、人生の悲喜こもごもを記すための身近な表現手段だった。具体的な作品を読み解きながら人びとの感情・思考を掘り上げ、江戸文学の奥深い魅力へと迫る詩話集。

朝日新聞 2022/09/17

2022:8./ 2p,253p
978-4-00-431940-5

¥990〔税込〕



16テーマで知る鎌倉武士の生活(岩波ジュニア新書 956)

西田 友広 著

岩波書店

鎌倉幕府のトップである「鎌倉殿」に仕えた武士、すなわち御家人たちはどのような人々だったのか。どのような生活をし、社会の中でどのような役割を果たしていたのか。古文書や絵巻物などの史料をもとに鎌倉武士の実像を解明。

朝日新聞 2022/09/17

2022:8./ 10p,207p,5p
978-4-00-500956-5

¥968〔税込〕



草の根のファシズム～日本民衆の戦争体験～(岩波現代文庫 学術 452)

吉見 義明 著

岩波書店

日中戦争、アジア太平洋戦争を引き起こした天皇制ファシズム。その被害者とされてきた民衆がファシズムを支えていたこと、そして戦争末期の悲惨な体験から戦後デモクラシーが生まれたことを、民衆による記録から明らかにする。

朝日新聞 2022/09/17

2022:8./ 6p,317p,10p
978-4-00-600452-1

¥1,628〔税込〕



英雄

真保裕一 著

朝日新聞出版

何者かに射殺された大企業・山藤グループ総帥の南郷英雄が、実の父親と知らされた英美。犯人を捜し求める英美がたどり着いた、父の知られざる半生と驚愕の真実とは…。『小説トリッパー』連載を加筆し単行本化。

朝日新聞 2022/09/17

2022:9./ 346p
978-4-02-251858-3

¥1,870〔税込〕





基礎からわかる論文の書き方(講談社現代新書 2660)

小熊 英二 著
講談社

書く方法がわかれば、勉強はもっと面白くなる。論文とは何かから、研究の進め方、文章の書き方や注記のしかたまで、論文の書き方を会話形式を交えながら解説する。慶應義塾大学の講義をもとに書籍化。

朝日新聞 2022/09/17

2022:5./ 475p
978-4-06-528086-7
¥1,320〔税込〕



役者は一日にしてならず

春日 太一 著
小学館

平幹二郎、千葉真一、夏八木勲、平泉成、杉良太郎、蟹江敬三…。魂を揺さぶる名優16人の白熱インタビュー。『週刊ポスト』連載「役者は言葉でできている」を大幅に加筆して書籍化。

朝日新聞 2022/09/17

2015:2./ 320p
978-4-09-379869-3
¥1,650〔税込〕



天才勝新太郎(文春新書)

春日 太一 著
文芸春秋

「座頭市」と豪快な勝新伝説で知られる勝新太郎。巨匠・黒沢との決裂の真相とは…。映画製作者としての勝とその凄まじい現場をスタッフの証言を元に再現し、繊細すぎる実像を浮き彫りにする。

朝日新聞 2022/09/17

2010:1./ 303p
978-4-16-660735-8
¥1,034〔税込〕



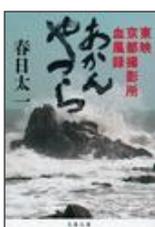
鬼才五社英雄の生涯(文春新書 1087)

春日 太一 著
文藝春秋

極彩色のエンターテイナー、映画監督・五社英雄。自らの人生も「演出」した男はなぜその背に鬼を彫り込んだのか?虚実ハッター入り乱れた生涯に翻弄されながら、渾身の取材で「鬼」の真実に迫る。

朝日新聞 2022/09/17

2016:8./ 317p
978-4-16-661087-7
¥1,012〔税込〕



あかんやつら～東映京都撮影所血風録～(文春文庫 か71-1)

春日 太一 著
文藝春秋

時代劇、ヤクザ映画、ポルノ…。大衆の欲望とともに駆け抜けた66年。照明、美術、脚本、殺陣師、監督などスターを輝かせるために奔走した裏方・職人たちへの取材で、太秦・東映京都撮影所の舞台裏を浮き彫りにする。

朝日新聞 2022/09/17

2016:6./ 530p
978-4-16-790641-2
¥1,122〔税込〕





女たちのシベリア抑留(文春文庫 こ 48-1)

小柳 ちひろ 著
文藝春秋

極寒の地で抑留生活に耐えた少女たち、収容所で出産した女性、ソ連兵にさらわれた少女…。長く歴史の陰に埋もれていたシベリアに抑留された女性たちの声をつぶさに拾い上げた番組のディレクターが綴るノンフィクション。

朝日新聞 2022/09/17

2022:9./ 349p
978-4-16-791937-5

¥880〔税込〕



SHO-TIME～大谷翔平メジャー120年の歴史を変えた男～

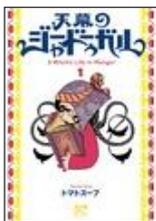
ジェフ・フレッチャー 著
徳間書店

ショウヘイの本質は、野球そのものと試合を可能な限り楽しもうとする姿勢にある-。全米が驚嘆した大谷の凄さと秘密を、1460日間密着した番記者が徹底解明する。

朝日新聞 2022/09/17

2022:7./ 366p 図版
16p
978-4-19-865497-9

¥1,980〔税込〕



天幕のジャドゥーガル 1(ボニータ・コミックス)

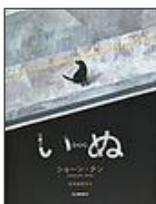
トマトスープ 著
秋田書店

後宮では賢さこそが美しさ。13世紀、地上最強の大帝国「モンゴル帝国」の捕虜となり、後宮に仕えることになった女・ファティマは、当時世界最高レベルの医療技術や科学知識を誇るイランの出身。その知識と知恵を持ち、自分の才能を発揮できる世界を求めているファティマは、第2代皇帝・オゴタイの第6夫人でモンゴル帝国に複雑な思いを抱く女・ドレゲネと出会う―。歴史マンガの麒麟児・トマトスープが紡ぐ、大帝国を揺るがす女ふたりのモンゴル後宮譚！

朝日新聞 2022/09/17

2022:8./ 192p
978-4-253-26446-4

¥660〔税込〕



いぬ

ショーン・タン 著
河出書房新社

かつて、わたしときみとはまったくの他者だった。でも、わたしもきみもそれだけで終わりたくなかった-。さまざまなシチュエーションで描かれる人間と犬の切なくも優しい物語。

朝日新聞 2022/09/17

2022:7./ 1冊(ページ

付なし)

978-4-309-29200-7

¥1,980〔税込〕



高倉健～みんなが愛した最後の映画スター～(KAWADE ムック)

春日 太一 編
河出書房新社

「最後の映画スター」を貫いた役者・高倉健。デビュー当時から遺作に至るまで、現場を共にした俳優・スタッフたちの証言から、その魅力と人物像に新たに迫る。

朝日新聞 2022/09/17

2022:8./ 351p
978-4-309-98044-7

¥1,782〔税込〕





市民的不服従

ウィリアム・E・ショイアマン 著
人文書院

市民による非暴力運動は、いかにして正統性をもちえるのか。ガンディー、キングからBLM、環境運動、ウィキリークスまで、ロールズ、アーレント、ハーバーマスを理論的基軸に、実践と概念の変遷を多角的・総合的に論じる。

朝日新聞 2022/09/17

2022:7./ 315p
978-4-409-24148-6
¥3,520〔税込〕



そこから青い闇がささやき〜ベオグラード、戦争と言葉〜(ちくま文庫 や 60-1)

山崎 佳代子 著
筑摩書房

最初は死者が名前で知らされる。それから数になる。最後には数もわからなくなる...。旧ユーゴスラビア、ベオグラード。戦争がはじまるも、日本への帰国を拒み空爆下の街に留まった詩人が、戦火の中の暮らし、文学、希望を綴る。

朝日新聞 2022/09/17

2022:8./ 245p
978-4-480-43833-1
¥880〔税込〕



江戸後期の詩人たち(東洋文庫 816)

富士川 英郎 著
平凡社

日本の漢詩は江戸後期に初めて世間に幅広く普及した。江戸後期の詩人約50人の略伝と代表作を紹介。大正から昭和に至り忘れられた漢詩文の豊かな富を悠々たる筆致で現代に蘇らせた名著。

朝日新聞 2022/09/17

2012:1./ 396p
978-4-582-80816-2
¥3,410〔税込〕



国葬の成立〜明治国家と「功臣」の死〜

宮間 純一 著
勉誠出版

権力は「功臣」の死にどのような意味を付与し、いかに装飾・創造していったのか。個人の死が「公」の儀式へと変わっていく様相を体系的に検証し、近代国家形成の装置として導入された「国葬」の歴史的展開を明らかにする。

朝日新聞 2022/09/17

2015:11./
6p,277p,11p
978-4-585-22130-2
¥3,520〔税込〕



無縁社会の葬儀と墓〜死者との過去・現在・未来〜

山田 慎也/土居 浩 編
吉川弘文館

直葬・墓じまい・孤立死・無縁社会など、伝統的な死者儀礼の衰退・崩壊が喧伝される現在。眼前で勃興し、一方で消滅しつつある死者儀礼の実態・制度・観念を取り上げ、歴史的把握を試みる。

朝日新聞 2022/09/17

2022:7./ 12p,245p
978-4-642-08206-8
¥4,180〔税込〕





記憶と追悼の宗教社会学～戦没者祭祀の成立と変容～

栗津 賢太 著

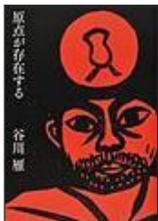
北海道大学出版会

ナショナリズムが、いかに「死」を正当化したのかという問題を、戦没者にいかに対処してきたのかという問題であると読み替え、戦没者の追悼や顕彰、慰霊の問題として考える。

朝日新聞 2022/09/17

2017:2./ 6p,355p,20p
978-4-8329-6826-4

¥7,040〔税込〕



原点が存在する

谷川 雁 著

月曜社

詩人にして思想家、オルガナイザーである谷川雁の初期重要作。民衆の深部へ降り立つ不滅の詩論・思想論集。谷川雁研究の第一人者、坂口博による厳密な校訂に解題・著作リストを付す。「工作者宣言」も同時刊行。

朝日新聞 2022/09/17

2022:8./ 339p

978-4-86503-145-4

¥2,750〔税込〕



たまごのはなし

しおたに まみこ 著

ブロンズ新社

ある日とつぜん目を覚ましたたまご。はじめて歩き、はじめて話す。マシュマロを起こして、キッチンの台を降り、探検にも出かけ…。読むほどに引き込まれる不思議なお話を3話収録。

朝日新聞 2022/09/17

2021:2./ 48p

978-4-89309-683-8

¥1,210〔税込〕



宝治合戦～北条得宗家と三浦一族の最終戦争～(朝日新書 876)

細川重男 著

朝日新聞出版

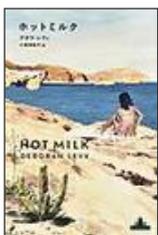
承久の乱の26年後。鎌倉幕府 No.1 北条氏と No.2 三浦氏との間で主導権争い「宝治合戦」が勃発する。北条氏が勝利し、得宗独裁体制が確立された鎌倉時代の大転換点となった戦いを、解説編&小説編で徹底解説する。

朝日新聞 2022/09/17、朝日新聞 2022/09/17

2022:8./ 374p

978-4-02-295185-4

¥1,089〔税込〕



ホットミルク(CREST BOOKS)

デボラ・レヴィ 著

新潮社

原因不明の病で歩けない母と、献身的に介護する25歳の娘ソフィアは、治療のため南スペインの町を訪れた。夏の太陽と海の誘惑のなか、ソフィアは自分を覆っている本当の痛みと向き合い、ある決断をするのだが…。

朝日新聞 2022/09/17、読売新聞 2022/09/18

2022:7./ 315p

978-4-10-590182-0

¥2,420〔税込〕





まず牛を球とします。

柞刈 湯葉 著
河出書房新社

牛は食べたいが、動物は殺したくない。そんな人類の夢が実現した未来を描く表題作、ミステリ少年漫画家の苦悩「犯罪者には田中が多い」、原子爆弾が爆発しなかった「沈黙のリトルボーイ」…。14編を収録したSF作品集。

朝日新聞 2022/09/17、読売新聞 2022/09/18

2022:7./ 285p
978-4-309-03056-2

¥1,980〔税込〕



宮本常一の旅学～観文研の旅人たち～

福田晴子 著
八坂書房

民俗学者・宮本常一のもと、「旅して学ぶ」という社会実験が「日本観光文化研究所(観文研)」でおこなわれた。実際に旅して学んだ人たちの語りをもとに、「旅学」について考察する。

朝日新聞 2022/09/17、日本経済新聞 2022/09/24

2022:7./ 322p
978-4-89694-298-9

¥2,970〔税込〕



オブジェクトム/如何様(朝日文庫 た67-1)

高山羽根子 著
朝日新聞出版

小学生の頃、秘密基地で壁新聞を作っていた祖父が隠していたものとは…。戦地から復員した夫が見知らぬ姿となって帰ってきて…。表題2作に「ホテル・マニラの熱と髪」などを加えた初期作品集。

朝日新聞 2022/09/24

2022:7./ 294p
978-4-02-265052-8

¥913〔税込〕



本物の読書家(講談社文庫 の20-2)

乗代 雄介 著
講談社

老人ホームに向かうひとり身の大叔父に同行しての数時間の旅。同じ車両に乗り合わせた読書家らしい男にのせられ、大叔父が明かした驚くべき秘密とは。表題作のほか、「未熟な同感者」を収録。

朝日新聞 2022/09/24

2022:7./ 279p
978-4-06-528595-4

¥748〔税込〕



縄文人と弥生人～「日本人の起源」論争～(中公新書 2709)

坂野 徹 著
中央公論新社

「日本人の起源」の定説が20世紀後半に定着するまで、様々な説が唱えられてきた。骨と土器に魅せられ、起源を探求した研究者たちの100年の物語を辿り、日本人起源論の思想的流れと政治・社会の関係について考える。

朝日新聞 2022/09/24

2022:7./ 8p,301p
978-4-12-102709-2

¥1,034〔税込〕





「美味しい」とは何か〜食からひもとく美学入門〜(中公新書 2713)

源河 亨 著
中央公論新社

「美味しい」「まずい」は好みの問題? レビューサイトは純粋に食事を楽しむ邪魔?
インスタントラーメンは芸術か? 絵画や音楽ではなく、身近な食事から扉を開く、やさしくも奥深い美学入門。

朝日新聞 2022/09/24

2022:8./ 7p,213p
978-4-12-102713-9

¥902〔税込〕



無垢の博物館<上>(ハヤカワ epi 文庫 103)

オルハン・パムク 著
早川書房

輸入会社の社長を務め、近々婚約式を挙げるケマルの人生は、誰の目にも順風満帆に映った。だが遠縁の娘・フスンと再会した彼は、危険な一歩を踏み出し…。トルコの近代化を背景に、愛に忠実に生きた男の数奇な一生を描く。

朝日新聞 2022/09/24

2022:8./ 503p
978-4-15-120103-5

¥1,408〔税込〕



無垢の博物館<下>(ハヤカワ epi 文庫 104)

オルハン・パムク 著
早川書房

ケマルの心は、恋人のスイベルと遠縁の娘・フスンの間を揺れ動き、終わりのない苦悩に沈む。やがて焦れた女たちはそれぞれの決断を下すが…。トルコの近代化を背景に、愛に忠実に生きた男の数奇な一生を描く。

朝日新聞 2022/09/24

2022:8./ 554p
978-4-15-120104-2

¥1,408〔税込〕



やまの動物病院

なかがわちひろ 著
徳間書店

町のはずれの、いちばん山に近いところにある小さな動物病院。そこでは夜になると、動物のお医者さんのまちの先生と暮らす大きなとらねこの「とらまる」が、こっそり山の動物たちの病気やけがを治していて…。楽しいお話。

朝日新聞 2022/09/24

2022:8./ 63p
978-4-19-865503-7

¥1,870〔税込〕



あくてえ

山下 紘加 著
河出書房新社

90歳の憎たらしいばああと、面倒見が良く気弱な母と3人で暮らす小説家志望のゆめ。鬱屈を悪態に変えて己を奮い立たせる19歳のヘヴィな日常を描く。『文藝』掲載を単行本化。

朝日新聞 2022/09/24

2022:7./ 174p
978-4-309-03063-0

¥1,650〔税込〕





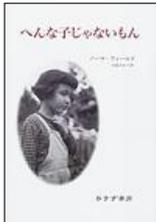
射精道(光文社新書 1219)

今井伸 著
光文社

性機能と生殖医療の専門医が、それぞれの年代での性生活・射精生活の心構え、現れやすい問題と対策を解説。思春期から中高年までの医学的に正しい陰茎の扱い方や、生涯にわたり性機能を維持する方法を紹介する。

朝日新聞 2022/09/24

2022:9./ 282p
978-4-334-04626-2
¥968〔税込〕



へんな子じゃないもん

ノーマ・フィールド、大島 かおり 著
みすず書房

幼い日の思い出、寝たきりの祖母と過ごしたかけがえのない日々、地下鉄で拾った会話まで、愛情に満ちた視点で過去の日々を綴る。ばらばらな歴史の一片一片を繋いだ、子供時代と日本の戦後史のメモワール。

朝日新聞 2022/09/24

2006:3./ 253p
978-4-622-07198-3
¥2,640〔税込〕



遠野物語と柳田國男～日本人のルーツをさぐる～(歴史文化ライブラリー 556)

新谷 尚紀 著
吉川弘文館

山姥や河童・ザシキワラシ、犬・猿・馬などが登場し、臨死体験、神隠しなどの不思議な経験伝える「遠野物語」。伝承にひそむ古来の生活様式やものの見方を知り、日本人の歴史の変遷を探る。

朝日新聞 2022/09/24

2022:9./ 9p,218p
978-4-642-05956-5
¥1,870〔税込〕



ペンギンもつらいよ～ペンギン神話解体新書～

ロイド・スペンサー・デイヴィス 著
青土社

世界的に著名なペンギン学者が、ペンギンのライフスタイル、誘惑のテクニック、生き延びるための秘策を通して、ペンギンの複雑な世界と驚くべき真実を明らかにする。本体は背表紙なし糸綴じ。

朝日新聞 2022/09/24

2022:7./ 223p
978-4-7917-7477-7
¥2,640〔税込〕



アーマのうそ

キャロル・ライリー・ブリンク 著
文溪堂

友だちに思わず「世界一大きな人形を持ってる」と、うそをついてしまったアーマ。それはどんどんふくらんで、とうとう、学校あげての一大イベントで発表することになってしまい…。アーマは、このピンチを、どう切り抜ける？

朝日新聞 2022/09/24

2022:9./ 205p
978-4-7999-0462-6
¥1,760〔税込〕





きらわれ虫の真実～なぜ、ヤツらはやってくるのか～

谷本 雄治 著

太郎次郎社エディタス

家庭菜園に、網戸に、室内に。気づけばそこにいる侵入者の言い分とは？虫と対話するナチュラルリストが、きらわれ虫の生態と意外な魅力を紹介し、ほどよいつきあい方を提案する。カラー図版も多数収録。

朝日新聞 2022/09/24

2022:8./ 205p
978-4-8118-0855-0

¥1,980〔税込〕



パリの空の下で、息子とぼくの3000日

辻仁成 著

マガジンハウス

息子の幸せそうな顔が自分の幸せだと思える時に、ぼくは生きていることに感謝する。10歳だった息子が大学に合格するまでの、ともに生きた愛情の記録。Web マガジン『Design Stories』連載を加筆し書籍化。

朝日新聞 2022/09/24

2022:6./ 294p
978-4-8387-3207-4

¥1,980〔税込〕



めをさませ

五味 太郎 著

絵本館

三日月に座って寝ていた、かわいい生きものが、落ちました。どんどん落ちていく様子に、まわりはハラハラ。「おーい、めをさませ！」はっと目を覚ましたその生きものは、自分がなんだったかを思い出し…。

朝日新聞 2022/09/24

2022:7./ 24p
978-4-87110-478-4

¥1,540〔税込〕



萩尾望都がいる(光文社新書 1212)

長山 靖生 著

光文社

「ポーの一族」「トーマの心臓」「11人いる!」「イグアナの娘」…。SF、ジェンダー、多様性、親子関係などをテーマにした、常に時代の先を行く萩尾望都の表現に我々は何を学んだのか。その魅力と軌跡を辿る。

東京・中日新聞 2022/09/04

2022:7./ 322p
978-4-334-04620-0

¥1,078〔税込〕



近代日本の競馬～大衆娯楽への道～(叢書パルマコン・ミクロス 02)

杉本 竜 著

創元社

戦前唯一の「公認賭博」であり、かつ知的推理を伴う大衆娯楽だった競馬。陸軍・興行主・宮内省など諸勢力の攻防や、賭けを楽しむ庶民の姿を、様々な史料を駆使して細部までリアルに描き、歴史的に様々な相貌を明らかにする。

東京・中日新聞 2022/09/04

2022:6./ 341p
978-4-422-70126-4

¥2,750〔税込〕





米露諜報秘録 1945-2020～冷戦からプーチンの謀略まで～

ティム・ワイナー 著
白水社

インターネットとソーシャルメディアを駆使したプーチンの「政治戦」とは。第二次大戦後の諜報活動と外交の深層からサイバー攻撃の脅威まで、ピューリッツァー賞受賞作家が機密解除文書を検証する。

東京・中日新聞 2022/09/04、日本経済新聞 2022/09/17

2022.7./ 324p,60p
978-4-560-09436-5

¥3,300〔税込〕



戦争とデザイン

松田 行正 著
左右社

人間を翻弄し戦争へと駆り立てる一方で、その悪の道を食い止める正義にもなりうる「デザイン」。近代以前からプーチンのウクライナ侵攻まで、人間の悪と正義が熾烈にせめぎあう「戦争のデザイン」の歴史をたどる。

東京・中日新聞 2022/09/04、日本経済新聞 2022/09/17、産経新聞 2022/09/25

2022.7./ 263p
978-4-86528-093-7

¥2,750〔税込〕



ストレス脳(新潮新書 959)

アンデシュ・ハンセン 著
新潮社

これほど快適に暮らせるようになったのに、なぜ多くの人が精神的な不調を訴えているのだろうか。「スマホ脳」の著者が最新研究をもとに心と脳の仕組みを明らかにし、「ストレス」と付き合うための「脳の処方箋」を伝授する。

東京・中日新聞 2022/09/11

2022.7./ 255p
978-4-10-610959-1

¥1,100〔税込〕



ルポ誰が国語力を殺すのか

石井 光太 著
文藝春秋

子供たちの国語力が失われているのはなぜなのか。「ごんぎつね」の読めない小学生、反省文の書けない高校生などの具体例を挙げながら、言葉を失った子供たちの実態と、国語力回復の道筋を描く渾身のルポ。

東京・中日新聞 2022/09/11

2022.7./ 330p
978-4-16-391575-3

¥1,760〔税込〕



日清・日露戦史の真実～『坂の上の雲』と日本人の歴史観～(筑摩選書 0232)

渡辺 延志 著
筑摩書房

官修「日清戦史」は陸軍が不都合な事実を隠蔽、改竄して編纂していた。埋もれていた歴史を掘り起こし、120余年の歳月を超えた日清戦争の実像に迫り、日本人の歴史観のあり方を問いなおす。

東京・中日新聞 2022/09/11

2022.7./ 249p
978-4-480-01750-5

¥1,760〔税込〕





ことばの力うたの心～吉本隆明短歌論集～

吉本隆明 著
幻戯書房

単調で、複雑な意味の表現をしていないにもかかわらず、なぜ芸術的感銘を与えるのか。「言語にとって美とはなにか」以来の素朴な疑問を携え、短歌表現の魅力に迫る歌人論。寺山修司、辺見じゅんとの対談も収録。

東京・中日新聞 2022/09/11

2022:7./ 269p
978-4-86488-250-7
¥2,640〔税込〕



年寄り本気だ～はみ出し日本論～(新潮選書)

養老 孟司／池田 清彦 著
新潮社

日本には人命尊重という概念がない、有事になると希望的観測で動く…。養老孟司と池田清彦が、この国を動かす「空気」の正体を断じ、流行りものにも物申す。84歳と75歳が、日本のほんとうの難題を語り尽くす。

東京・中日新聞 2022/09/18

2022:7./ 223p
978-4-10-603886-0
¥1,705〔税込〕



第三次世界大戦はもう始まっている(文春新書 1367)

エマニュエル・トッド 著
文藝春秋

本来避けられたウクライナ戦争の原因と責任はプーチンではなく米国と NATO にある。事実上、米露の軍事衝突が始まり「世界大戦化」した。歴史家エマニュエル・トッドがウクライナ戦争と米露欧の状況を冷静に読み解く。

東京・中日新聞 2022/09/18

2022:6./ 206p
978-4-16-661367-0
¥858〔税込〕



戦時下のノーサイド～大学ラグビー部員たちの生と死～

早坂隆 著
さくら舎

学徒出陣、特攻、飢えとの闘い、原爆、シベリア抑留。京都帝国大学(現・京都大学)ラグビー部を主人公に、東大・慶大・早大・同志社大・明大などのライバル校の歩みも交え、戦前・戦中のラグーマンの軌跡をたどる。

東京・中日新聞 2022/09/18

2022:7./ 310p
978-4-86581-349-4
¥1,980〔税込〕



クリ粥(深川駕籠 [4])

山本一力 著
祥伝社

長屋の桶職人の最期の願いを叶えるため、時季外れのクリを手に入れろ! 深川一の疾風駕籠の二人が、希望を信じて江戸の町を奔る、奔る! シリーズ第4弾。『小説NON』掲載に加筆修正し単行本化。

東京・中日新聞 2022/09/25

2022:8./ 365p
978-4-396-63631-9
¥1,980〔税込〕





ストーリーが世界を滅ぼす〜物語があなたの脳を操作する〜

ジョナサン・ゴットシャル 著

東洋経済新報社

日々飛び交う陰謀論、情報操作、フェイクニュース。人類の文明を築いたストーリーが世界を破壊し始めている。ストーリーから世界を救うにはどうすればいいか。「ファクトなき社会」で生き抜く、武器としての思考法を教える。

東京・中日新聞 2022/09/25

2022:8./ 268p,47p
978-4-492-44469-6

¥2,200〔税込〕



カヨと私

内澤旬子 著

本の雑誌社

小豆島でヤギと暮らしはじめた著者。カヨと名付けたヤギを、気づけば「どっちが飼い主?!」と笑われるほど世話をし、ともに時間を過ごして…。著者が描いたイラストも多数収録。『母の友』連載を単行本化。

東京・中日新聞 2022/09/25

2022:7./ 252p
978-4-86011-470-1

¥2,200〔税込〕



小さきものの近代<1>

渡辺京二 著

弦書房

近代国民国家建設の過程で、支配される人びと=小さき人びとが、自身の<近代>を創り出すためにどのように心を尽くしたかを描く壮大な物語。1は「徳川社会」「開国と攘夷」等を収録。『熊本日日新聞』連載を単行本化。

東京・中日新聞 2022/09/25

2022:7./ 5p,303p
978-4-86329-248-2

¥3,300〔税込〕



老記者の伝言〜日本で100年、生きてきて〜(朝日文庫 む 16-1)

むのたけじ 著

朝日新聞出版

敗戦の日に新聞社を辞めて秋田で週刊新聞『たいまつ』を創刊。社会の矛盾や不正を訴え続けてきた著者が、戦争、原発や差別などの問題を考えぬき、大切なことは何かを語りつくす。年表、次男によるエッセイも収録。

読売新聞 2022/09/04

2022:7./ 286p
978-4-02-262068-2

¥880〔税込〕



家庭用安心坑夫

小砂川 チト 著

講談社

日本橋三越の柱に、幼い頃実家の洋服箆筒に貼ったはずのシールがあるのを見つけた小波。狂気と現実世界が互いに侵蝕し合い、想定外の領域へと運んでいき…。『群像』掲載を書籍化。

読売新聞 2022/09/04

2022:7./ 125p
978-4-06-528857-3

¥1,540〔税込〕





ひろしま

石内 都 著
集英社

花柄のワンピース、水玉のブラウス、テーラーメイドの背広、壊れたメガネ。写真家・石内都が、広島平和記念資料館に収蔵されている被爆遺品を撮影。美しいから辛い、可憐だからむごい。広島の心模様が残る写真集。

読売新聞 2022/09/04

2008:4./ 78p
978-4-08-780482-9

¥1,980〔税込〕



なぜ「星図」が開いていたか〜初期ミステリ傑作集〜(新潮文庫 ま-1-71)

松本 清張 著
新潮社

心臓麻痺で突然死した教員の机に開かれた百科事典には「星図」の項が。その意味を探る表題作のほか、新人俳優に舞い込んだ映画出演の顛末を描く「顔」など、巨匠の凄みを凝縮した初期の傑作 8 編を収録。

読売新聞 2022/09/04

2022:8./ 397p
978-4-10-110977-0

¥781〔税込〕



新疆ウイグル自治区〜中国共産党支配の70年〜(中公新書 2700)

熊倉 潤 著
中央公論新社

習近平政権のもと、深刻な人権侵害が指摘されている新疆ウイグル自治区。自治区の成立当初は「解放」を謳った中国共産党は、なぜ過酷な統治姿勢に転じたのか。新疆地域の歴史を丁寧にたどり、その現在と未来を考察。

読売新聞 2022/09/04

2022:6./ 6p,252p
978-4-12-102700-9

¥946〔税込〕



爆心

青来 有一 著
文芸春秋

私は昭和20年8月9日11時2分の白い光の中から現れた。被爆したその日から「生」が始まった男が過去と行く末に思いをはせる「鳥」ほか、長崎の爆心地周辺で生きる人々を描く連作短篇集。

読売新聞 2022/09/04

2006:11./ 284p
978-4-16-325470-8

¥1,938〔税込〕



読切り三国志(潮文庫 い-8)

井波 律子 著
潮出版社

「三国志」に登場する絢爛豪華な英雄武将たちの生の軌跡を、陳寿の正史「三国志」をもとに明の羅貫中の小説「三国演义」を織り交ぜながら描き出す。乱世をたくましく生き、戦い抜いた漢たちの生き様を名調子で語り尽くす。

読売新聞 2022/09/04

2022:8./ 356p
978-4-267-02354-5

¥1,210〔税込〕





江戸の怪談がいかにして歌舞伎と落語の名作となったか

櫻庭由紀子 著
笠間書院

「四谷怪談」「皿屋敷」など、江戸時代から語り継がれてきた“怪談もの”。古き良き江戸期の怪談・怪異を掘り下げ、説話から歌舞伎や浄瑠璃・落語・講談などの芸能への展開、当時の社会背景を読み解く。

読売新聞 2022/09/04

2022:6./ 337p
978-4-305-70964-6

¥1,980〔税込〕



地魚の文化誌～魚食をめぐる人の営み～

太田 雅士 著
創元社

地域に根づいた知られざる魚食文化を探究した文化誌。魚を獲る、育てる、仕入れる、加工する、卸売り、料理人、そして食べる人まで、魚に関わるすべての生業と生活史を描き出す。

読売新聞 2022/09/04

2022:5./ 199p
978-4-422-74034-8

¥2,750〔税込〕



インド大反乱一八五七年(ちくま学芸文庫 ナ 32-1)

長崎 暢子 著
筑摩書房

東インド会社の傭兵シパーヒーの蜂起からインド各地へ広がった大反乱。この反乱を支えていたのは何であったのか。複雑なインド社会の根幹部分を丹念にすくいあげて分析し、インド民族運動の真実の姿を描き出す。

読売新聞 2022/09/04

2022:7./ 296p
978-4-480-51129-4

¥1,320〔税込〕



その悩み、エピクテトスなら、こう言うね。～古代ローマの大賢人の教え～

山本 貴光／吉川 浩満 著
筑摩書房

尽きない悩みも、古代の賢人に学べば、みるみる氷解! エピクテトスの「自分の権内と権外を適切に見極めよ」という考え方に注目しながら、仕事や進路、人間関係の悩みに対話形式で答える。

読売新聞 2022/09/04

2020:3./ 221p
978-4-480-84750-8

¥1,540〔税込〕



デビルズチョイス～書き下ろし長編警察小説～(双葉文庫 警察庁特命捜査官 水野乃亜 は-34-04 [3])

初瀬 礼 著
双葉社

イスラム過激派による日本人拉致事件がカザフスタンで発生した。現地に飛んだ警察庁国際テロリズム対策課の水野乃亜は、邦人救出と並行し、テロリストとの関係が噂される上司・佐山英吾を監視するよう命じられ...

読売新聞 2022/09/04

2022:7./ 336p
978-4-575-52584-7

¥770〔税込〕





遠山景晋(人物叢書 新装版 通巻 313)

藤田 覚 著
吉川弘文館

名奉行遠山金四郎景元の父で、目付・長崎奉行・勘定奉行などを歴任した江戸後期の幕臣、遠山景晋。転換期の対外政策を最前線で担い、有能だが遅咲きだった生涯を、紀行文や日記をもとに辿り、その実像に迫る。

読売新聞 2022/09/04

2022:7./ 15p,303p
978-4-642-05306-8

¥2,530〔税込〕



生命機械が未来を変える〜次に来るテクノロジー革命「コンバージェンス 2.0」の衝撃〜

スーザン・ホックフィールド 著
合同出版

ウイルスが育てるバッテリー、脳とつながる画期的な義肢、食糧危機に対応できる望ましい遺伝的形質をもつ植物変異株を迅速に見つけ出す高速フェノタイピング…。MITが進めるテクノロジー革命の最前線を伝える。

読売新聞 2022/09/04

2022:6./ 257p
978-4-7726-9576-3

¥2,530〔税込〕



言葉のおもちゃ箱〜伊奈かっぺい綴り方教室〜

伊奈かっぺい 著
本の泉社

「たまらんなあ…気分も貯金も」 コロナ禍の鬱屈ささえ笑いに変わる。世の中の動きにつかず離れず何をどこまで笑えるかをテーマにした、伊奈かっぺいの言葉遊び。『産経新聞』東北版、『みんよう春秋』連載をもとに書籍化。

読売新聞 2022/09/04

2022:6./ 245p
978-4-7807-1849-2

¥1,500〔税込〕



絵巻で読む方丈記

鴨長明／田中幸江 著
東京美術

鎌倉時代初期に鴨長明が人間にとっての理想の住まいと環境について述べた随筆「方丈記」の本文を、江戸時代に制作された「方丈記絵巻」の絵画部分、現代語訳とともに収録する。「方丈記」および絵巻の解説も掲載。

読売新聞 2022/09/04

2022:6./ 111p
978-4-8087-1250-1

¥2,530〔税込〕



ナチス映画史〜ヒトラーと戦争はどう描かれてきたのか〜(ワニブックス |PLUS|新書 358)

馬庭 教二 著
ワニブックス

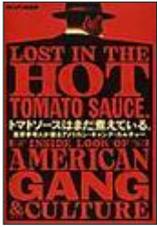
戦後 75 年を経ているが、ヒトラーやナチスを題材とする映画が数多く作られている。その系譜をたどるとともに、ジャンル・国別での特色や代表作を紹介。作品が訴えることは何か、我々はそれをどう観るべきなのかを考える。

読売新聞 2022/09/04

2022:6./ 309p
978-4-8470-6674-0

¥990〔税込〕





トマトソースはまだ煮えている。～重要参考人が語るアメリカン・ギャング・カルチャー～

HEAPS 編集部 著
左右社

アル・カボネは中古家具のセールスマンだった-。「ギャングにいちばん近いカタギ」が、アメリカン・ギャングスターの“内緒話”を語る。ウェブマガジン『HEAPS MAGAZINE』連載に書き下ろしを加えて書籍化。

読売新聞 2022/09/04

2022:6./ 211p
978-4-86528-076-0

¥1,980〔税込〕



中国の「よい戦争」～甦る抗日戦争の記憶と新たなナショナリズム～

ラナ・ミッター 著
みすず書房

なぜいま抗日戦争なのか。背景にある変化とは。1980年代以降の政界と学界の動向から、博物館の展示拡充、文学、映画、ソーシャル・メディア上の議論までを取り上げ、中国のナショナリズムと内的論理を多角的に分析する。

読売新聞 2022/09/04、朝日新聞 2022/09/24、日本経済新聞 2022/09/24

2022:7./
6p,300p,26,5p
978-4-622-09087-8

¥4,840〔税込〕



哲人たちの人生談義～ストア哲学をよむ～(岩波新書 新赤版 1935)

國方 栄二 著
岩波書店

「幸福とは何か」という問いに、身をもって対峙したストア派の哲人たち。ギリシアからローマにいたる西洋古代哲学の系譜をおさえつつ、エピクテトス、セネカらの言葉から<生きること>としての哲学を手繰りよせる。

読売新聞 2022/09/11

2022:7./ 3p,225p
978-4-00-431935-1

¥946〔税込〕



ぼくらの戦争なんだぜ(朝日新書 874)

高橋源一郎 著
朝日新聞出版

教科書、戦争小説、戦争詩を読んで見えてきた、人々を戦争に駆り立てることばの正体とは。遠い世界での「彼らの戦争」を考えながら、「ぼくらの戦争」とは何なのかを考える。『小説トリッパー』連載を改題、加筆修正し新書化。

読売新聞 2022/09/11

2022:8./ 473p
978-4-02-295157-1

¥1,320〔税込〕



万葉学者、墓をしまい母を送る(講談社文庫 う 65-2)

上野 誠 著
講談社

現代万葉研究を大きくリードする学者は、故郷福岡の墓をしまい老いた母を呼び寄せ、7年間介護して見送った息子でもあった…。体験と学問を軽妙な筆致で往来し、死について深く考え綴ったエッセイ。

読売新聞 2022/09/11

2022:8./ 208p
978-4-06-528756-9

¥682〔税込〕





アメリカの鱒釣り(新潮文庫)

リチャード・ブローティガン 著
新潮社
読売新聞 2022/09/11

2005.7./ 268p
978-4-10-214702-3

¥649〔税込〕



ブロッコリー・レボリューション

岡田 利規 著
新潮社

泣いてるのはたぶん、自分の無力さに対してだと思う、わかんないけど。演劇界の気鋭による、第35回三島由紀夫賞を受賞した表題作を含む15年ぶりの小説集。『新潮』など掲載を書籍化。

読売新聞 2022/09/11

2022.6./ 219p
978-4-10-304052-1

¥1,980〔税込〕



撤退戦〜戦史に学ぶ決断の時機と方策〜

齋藤 達志 著
中央公論新社

リスクを最小にする最善の時機・最良の方法とは。ガダルカナル、インパールなど近代戦において、政府、軍統帥機関、現場指揮官が下した決断と背景との因果関係・結果を分析、窮地から脱するための善後策を探る。

読売新聞 2022/09/11

2022.8./ 276p
978-4-12-005558-4

¥2,970〔税込〕



熱源(文春文庫 か80-2)

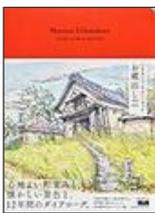
川越 宗一 著
文藝春秋

日本人にされそうになったアイヌと、ロシア人にされそうになったポーランド人。文明を押し付けられ、同化政策によりアイデンティティをも揺るがされた二人の<熱>と<軌跡>を描く、冒険歴史小説。

読売新聞 2022/09/11

2022.7./ 490p
978-4-16-791902-3

¥902〔税込〕



マテウシュ・ウルバノヴィチお蔵出し 2010-2021

マテウシュ・ウルバノヴィチ 著
エムディエヌコーポレーション

イラスト集「東京店構え」「東京夜行」の著者が、2010年頃から描き溜めた主に水彩画を収録した画集。日本の町並みや建物を独特の視点と優しいタッチで描いたイラストに、自身が記したメモを付す。本体は背表紙なし糸綴じ。

読売新聞 2022/09/11

2022.8./ 174p
978-4-295-20352-0

¥2,530〔税込〕





キリンの首

ユーディット・シャランスキー 著

河出書房新社

4年後の廃校が決まっている旧東ドイツのギムナジウム。生物教師インゲ・ローマルクは、例年のごとく生態系、遺伝、進化論を講ずるが、ある女子生徒の存在とともに、完璧な教室に亀裂が生じはじめ...

読売新聞 2022/09/11

2022:7./ 239p
978-4-309-20859-6
¥2,970〔税込〕



西瓜糖の日々(河出文庫)

R・ブローティガン 著

河出書房新社

コミュニー的な場所アイデス〈iDeath〉と〈忘れられた世界〉、そして私たちと同じ言葉が話することができる虎たち。澄明で静かな西瓜糖世界の人々の平和・愛・暴力・流血を描き、現代社会をあざやかに映した代表作。

読売新聞 2022/09/11

2003:7./ 209p
978-4-309-46230-1
¥858〔税込〕



ハックルベリー・フィンの冒けん

マーク・トウェイン、柴田 元幸 著

研究社

少年ハックルベリー・フィンは、父親やおばさんたちから逃れ、やはり逃亡してきた黒人奴隷のジムと2人で筏に乗ってミシシッピ川を旅する。原書オリジナル・イラスト174点、訳者・柴田元幸による解説も収録。

読売新聞 2022/09/11

2017:12./ 552p
978-4-327-49201-4
¥2,750〔税込〕



国際報道を問いなおす～ウクライナ戦争とメディアの使命～(ちくま新書 1668)

杉田 弘毅 著

筑摩書房

ウクライナ報道は、これでいいのか？戦争によって浮き彫りになった日本メディアの抱えるジレンマを指摘するとともに、激変する世界を前に国際報道が果たすべき役割を考える。

読売新聞 2022/09/11

2022:7./ 268p
978-4-480-07494-2
¥968〔税込〕



本屋になりたい～この島の本を売る～ 増補(ちくま文庫 う45-1)

宇田 智子 著

筑摩書房

東京の巨大新刊書店から沖縄の小さな古本屋へ。沖縄の「地産地消」の本の世界に飛び込んだ著者が、沖縄に関する本を買い取り、並べて、売る日々の中で、本と人のあいだに立って考えたことを綴る。7年の日々を大幅加筆。

読売新聞 2022/09/11

2022:7./ 254p
978-4-480-43829-4
¥836〔税込〕





わたしの心のレンズ～現場の記憶を紡ぐ～(インターナショナル新書 101)

大石 芳野 著

集英社インターナショナル

ベトナム、アウシュヴィッツ、広島、長崎、沖縄…。戦争の悲劇に襲われた地で撮影・取材を続け、各地の生活を見てきた著者が、戦争、差別をもたらす「何か」と、それを超えた共存と共生への道を考える。著者撮影の写真も満載。

2022:6./ 261p
978-4-7976-8101-7

¥990〔税込〕



読売新聞 2022/09/11



ウィリアム・ギブスン エイリアン 3

ウィリアム・ギブスン / パット・カディガン 著

竹書房

「エイリアン2」の続編の脚本家として指名されたサイバーパンクの巨匠ウィリアム・ギブスン。生き残った4人の運命をギブソンはどう描いたのか? 約30年の時を経て、ギブソン版「エイリアン3」を完全小説化。

2022:7./ 422p
978-4-8019-3170-1

¥2,200〔税込〕



読売新聞 2022/09/11



産業の新世界

シャルル・フーリエ 著

作品社

産業の進歩は数人の寵児を富裕にさせるために、勤労大衆すべてを貧窮に陥れる-。初期資本主義の病巣を分析し、理想社会ファランジュの構築プランを描き出したフーリエの古典的名著の初版を全訳。

2022:6./ 698p
978-4-86182-897-3

¥8,580〔税込〕



読売新聞 2022/09/11



感電しかけた話

伊舎堂仁 著

書肆侃侃房

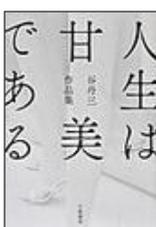
ワンルームばかり並んでいる町の小学校はなんなんだろう 小・中・高楽しかったやつ特有の「延滞料金すごくなってた」最近はやっぱのつばを反対っかわにしてから帰っています 第2歌集。

2022:2./ 117p
978-4-86385-511-3

¥1,870〔税込〕



読売新聞 2022/09/11



人生は甘美である～谷丹三作品集～

谷丹三 著

幻戯書房

牧野信一を師とし、坂口安吾、中原中也、埴谷雄高を友とした無口な作家、谷丹三の作品集。「センチメンタリズム」「脱出未遂」「脱がし屋」などの小説に加え、「信一と安吾」「哄笑論」といったコラムも収録する。

2022:6./ 605p
978-4-86488-249-1

¥7,480〔税込〕



読売新聞 2022/09/11



夏がとまらない～藤岡拓太郎作品集～

藤岡拓太郎 著
ナナロク社

1コマから2コマにするだけで、ただの絵が、ぐっと「映画」になる。ギャグ漫画家・藤岡拓太郎がTwitterなどに発表した2コマ～数コマの1ページ漫画217本を収録。

読売新聞 2022/09/11

2017:9./ 230p
978-4-904292-74-7

¥1,100〔税込〕



暴れ川と生きる～筑後川流域の生活史～

澤宮 優 著
忘羊社

「日本三大暴れ川」のひとつとして知られる大河・筑後川。阿蘇・九重の源流から国内有数のクリーク地帯を経て有明海に至るまで、川との闘いと共生を続けてきた流域4県の歴史と文化を描く。

読売新聞 2022/09/11

2022:7./ 255p
978-4-907902-29-2

¥2,090〔税込〕



自民党の魔力～権力と執念のキメラ～(朝日新書 873)

蔵前勝久 著
朝日新聞出版

自民党とは何か？なぜ勝ち続けるのか？国会議員と地方議員との関係や、地方議員と地域とのつながりを軸に、自民党内の力学、連立を組む公明党、野党のあり方を、証言とエピソードをもとに考察する。

読売新聞 2022/09/18

2022:7./ 286p
978-4-02-295178-6

¥935〔税込〕



スワン(角川文庫 こ52-2)

呉 勝浩 著
KADOKAWA

ショッピングモール「スワン」で起きた無差別銃撃事件。事件の渦中にながら生き残った少女、いずみのもとに、ある日招待状が届く。生存者たちを集めた“お茶会”の目的は、残された謎の解明だというのが...

読売新聞 2022/09/18

2022:7./ 434p
978-4-04-112757-5

¥880〔税込〕



宙(ソラ)の家(角川文庫)

大島 真寿美 著
角川書店

女子高に通う雛子の家は、マンションの11階にある4LDK。暇さえあれば寝てしまふ雛子、一風変わった弟の真人、最近変な受け答えをするようになった祖母。ぎりぎりで保たれていた家族の均衡が崩れだして.....。

読売新聞 2022/09/18

2006:12./ 223p
978-4-04-380802-1

¥523〔税込〕





そば学大全～日本と世界のソバ食文化～(講談社学術文庫 2731)

俣野 敏子 著
講談社

ウクライナのカーシャ、フランスのガレット、ネパールの腸詰め…。「蕎麦」だけがソバじゃない! 奇妙で奥深い植物ソバにとりつかれ、世界のソバを食べ歩いた農学者が、日本のそばの可能性、世界のソバ食文化等について綴る。

読売新聞 2022/09/18

2022:8./ 204p
978-4-06-529032-3

¥968〔税込〕



たとえば、葡萄

大島 真寿美 著
小学館

まったく先の見えない状態で会社を辞めた 28 歳の美月は、母の親友・市子(56 歳)の家に転がり込む。個性の強い大人に囲まれ、一緒に過ごすうち、美月は徐々に上を向き…。「今」と「これから」の物語。

読売新聞 2022/09/18

2022:9./ 249p
978-4-09-386656-9

¥1,980〔税込〕



松本清張推理評論集～1957-1988～

松本 清張 著
中央公論新社

「社会派推理」の巨匠による、戦後ミステリ史の空白を埋める論跡の全貌。「黒い手帖」など単行本・全集にはこれまで未収録だったミステリ評論 38 篇(+α)を初集成。巽昌章の解説を付す。

読売新聞 2022/09/18

2022:7./ 380p
978-4-12-005546-1

¥2,750〔税込〕



音声学者、娘とことばの不思議に飛び込む～プリチュワからカピチュウ、おっけーぐるぐるまで～

川原繁人 著
朝日出版社

プリキュアごっこ、ポケモン、しんだ、しまない、しむ…。子どもの言語発達からことばの原理が学べる! 言語学が専門の大学教員による、子育てエピソード満載の音声学入門書。ゴスペラーズ・北山陽一との対談も掲載する。

読売新聞 2022/09/18

2022:5./ 276p
978-4-255-01275-9

¥1,925〔税込〕



世界文学全集～池澤夏樹=個人編集～<1-01> オン・ザ・ロード

ジャック・ケルアック 著
河出書房新社

西部の太陽の子、輝けるディーンに引っ張られるように、若い作家サルは広大なアメリカ大陸を横に縦に疾駆する。ビート・ジェネレーションを代表する不滅の青春の書が、半世紀ぶりの躍動感あふれる新訳で甦る。

読売新聞 2022/09/18

2007:11./ 458p
978-4-309-70941-3

¥3,300〔税込〕





世界文学全集～池澤夏樹=個人編集～<1-11> 鉄の時代

J・M・クッツェー 著

河出書房新社

末期ガンを宣告された初老の女性ミセス・ヘレンは、自分が目の当たりにした黒人への暴力の現実を、遺書のかたちで書き残す…。反アパルトヘイト闘争の激化するケープタウンを舞台に人間の苦悩を描く、ノーベル賞作家の傑作。

2008.9./ 258p,5p
978-4-309-70951-2

¥2,860〔税込〕



読売新聞 2022/09/18



世界文学全集～池澤夏樹=個人編集～<2-10> 賜物

ウラジーミル・ナボコフ 著

河出書房新社

ロシア革命を逃れてベルリンに亡命した青年フョードルが、世界的な蝶の研究者である偉大な父への追憶を抱きつつ、作家として自立するまで描く。ロシア語作家時代のナボコフによる、最後で最大の長篇小説。

2010.4./ 612p,10p
978-4-309-70962-8

¥3,960〔税込〕



読売新聞 2022/09/18



世界文学全集～池澤夏樹=個人編集～<3-04> 苦海浄土

石牟礼 道子 著

河出書房新社

水俣の海に排出された汚染物質により自然や人間が破壊し尽くされてゆく悲劇を卓越した文学作品に結晶させた傑作。三部作すべて収録。

2011.1./ 780p
978-4-309-70968-0

¥4,510〔税込〕



読売新聞 2022/09/18



幻想の都鎌倉～都市としての歴史をたどる～(光文社新書 1198)

高橋慎一郎 著

光文社

「古都鎌倉」は奈良・京都とは異なり、日本人の記憶と想像によってつくられた都市だった。源氏以前の時代から現代までの鎌倉の通史をたどり、その実像と魅力に迫る。

2022.5./ 198p
978-4-334-04607-1

¥902〔税込〕



読売新聞 2022/09/18



「メンズビオレ」を売る進学校のしかけ～「自分で考え、自分で動ける子」が育つヒント～(青春新書 INTELLIGENCE PI-654)

青田泰明 著

青春出版社

校内の自販機で「メンズビオレ」を売り、食べたアイスの棒をリサイクルして「エコ箸」にするのはなぜか。「自分で考え、自分で動ける子ども」を育てる私立青稜中学校・高等学校の「しかけ」の秘密を公開する。

2022.7./ 188p
978-4-413-04654-1

¥1,133〔税込〕



読売新聞 2022/09/18



レミは生きている 新版(ちくま文庫 ひ2-6)

平野 威馬雄 著
筑摩書房

戦後、「混血児」を救う「レミの会」を結成した平野威馬雄。レミとは僅かな時しか共にいられなかった父が呼んだ愛称。アメリカの父と日本の母の間に生まれた彼は葛藤とともに成長し…。自伝小説。長女・平野レミの解説も収録。

読売新聞 2022/09/18

2022:8./ 293p
978-4-480-43832-4

¥880〔税込〕



我が人生〜ミハイル・ゴルバチョフ自伝〜

ミハイル・ゴルバチョフ 著
東京堂出版

現代史の生き証人、東西冷戦終結の当事者、ミハイル・ゴルバチョフの自伝。ペレストロイカ、ソ連大統領選出、1991年の8月クーデター、プーチン時代の始まりと新生ロシアなどを綴る。2021年8月発表の論考も収録。

読売新聞 2022/09/18

2022:7./ 571p
978-4-490-21067-5

¥3,960〔税込〕



ヨーロッパ中世の神話伝説の世界〜大英図書館豪華写本で見る〜

チャントリー・ウェストウェル 著
原書房

アーサー王、ダンテとベアトリーチェ、オデュッセイア、トリスタンとイゾルデ…。壮大な叙事詩から、冒険物語、恋愛譚、魔法の世界まで、中世ヨーロッパの40の物語を、大英図書館収蔵の彩色画250点とともに紹介する。

読売新聞 2022/09/18

2022:7./ 437p
978-4-562-07189-0

¥4,950〔税込〕



人は死ねない〜超長寿時代に向けた20の視点〜

奥真也 著
晶文社

AI診断、人工臓器、予防ビジネス…。超長寿時代は、人生が長くなる一方で、小さな体の不調を抱えながら生きる人が大量に増える時代でもある。未来の医療のあり方と問題点を提示しながら、超長寿時代の死とは何かを考察する。

読売新聞 2022/09/18

2022:6./ 272p
978-4-7949-7305-4

¥1,980〔税込〕



将棋・棋士の素顔〜知られざる千駄ヶ谷の魔境〜(マイナビ新書)

青野照市 著
マイナビ出版

棋界に現れた天才棋士・藤井聡太、にぎやかだった昭和の対局室、江戸時代から続く棋戦「名人戦」…。現役最年長棋士の青野照市九段が、棋士や将棋界について語る。『夕刊フジ』連載等を加筆修正。

読売新聞 2022/09/18

2022:6./ 295p
978-4-8399-8061-0

¥935〔税込〕





聖の青春(角川文庫 お49-9)

大崎 善生 著

KADOKAWA

幼くしてネフローゼを患いその宿命ともいえる疾患とともに成長し、熾烈で純粋な人生を全うした将棋指し・村山聖。家族の絆、友情、師弟愛と結ばれながら難病と闘い、名人の夢ひとすじに生き抜いた、その29年間の生涯を綴る。

2015:6./ 421p
978-4-04-103008-0

¥704〔税込〕



読売新聞 2022/09/25



生物と無生物のあいだ(講談社現代新書)

福岡 伸一 著

講談社

「生きている」とはどういうことか？ 分子生物学がたどりついた地平を、歴史の闇に沈んだ科学者たちに光を当てながら平易に明かす。ページをめくる手がとまらない極上の科学ミステリー。

2007:5./ 285p
978-4-06-149891-4

¥968〔税込〕



読売新聞 2022/09/25



泣き虫しよったんの奇跡(講談社青い鳥文庫 Eせ2-1)

瀬川 晶司 著

講談社

小5で初めて先生にほめられ、大好きな将棋に夢中になったしよったん。プロ棋士養成機関の奨励会へ入会するが、なかなかプロになれず、とうとう年齢制限をむかえてしまい…。プロ棋士・瀬川五段の物語。

2018:8./ 307p
978-4-06-512530-4

¥814〔税込〕



読売新聞 2022/09/25



みちづれの猫(集英社文庫 ゆ5-30)

唯川 恵 著

集英社

実家の猫に死期が近いことを母親から知らされ、私は東京から金沢に向かうが…。 「ミャアの通り道」をはじめ、人生の様々な場面で猫に救われてきた女性たちの心洗われる7つの物語を収録。

2022:8./ 237p
978-4-08-744419-3

¥704〔税込〕



読売新聞 2022/09/25



マヤコー〇一歳～元気な心とからだを保つコツ～

室井 摩耶子 著

小学館

老いては「個」に従え、面倒なことは聞かえないふり、シワやシミは「わが同士」、年齢を理由に我慢しない…。101歳にして現役ピアニストの室井摩耶子が、健康長寿の秘訣や自分らしく豊かに生きる指針などを綴る。

2022:8./ 189p
978-4-09-388868-4

¥1,320〔税込〕



読売新聞 2022/09/25



やりなおし世界文学

津村 記久子 著
新潮社

「ボヴァリー夫人」は前代未聞のだめな女? 「ねじの回転」は家具の組み立ての話?
古今東西の92作を取り上げ、物語の味わいを凝縮した世界文学案内。『本の時間』連載などに書下ろしを加えて単行本化。

読売新聞 2022/09/25

2022:5./ 331p
978-4-10-331983-2

¥1,980〔税込〕



盤上の向日葵<上>(中公文庫 ゆ 6-1)

袖月 裕子 著
中央公論新社

平成6年、身元不明の白骨死体が発見される。遺留品は名匠の将棋駒。刑事の石破と佐野は駒の足取りを追って日本各地に飛ぶ。折しも将棋界では、実業界から転身した異端の天才棋士・上条桂介が世紀の一戦に挑もうとしていた…。

読売新聞 2022/09/25

2020:9./ 342p
978-4-12-206940-4

¥770〔税込〕



盤上の向日葵<下>(中公文庫 ゆ 6-2)

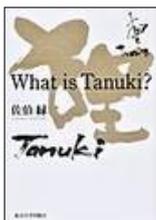
袖月 裕子 著
中央公論新社

昭和55年、棋士への夢を断った上条桂介は、駒打つ音に誘われて将棋道場に足を踏み入れる。そこで出会ったのは、伝説の真剣師・東明重慶だった。死体遺棄事件の捜査線上に、桂介と東明の壮絶すぎる歩みが浮かび上がり…。

読売新聞 2022/09/25

2020:9./ 322p
978-4-12-206941-1

¥748〔税込〕



What is Tanuki?

佐伯 緑 著
東京大学出版会

タヌキってアライグマやアナグマとどこが違うの? どんな暮らしをしてるの? ほんとうに化けたり化かしたりするの? タヌキ学の研究者が、令和のポンポコ事情を明らかにする。タヌキにまつわるエッセイも収録。

読売新聞 2022/09/25

2022:7./ 6p,147p,30p
978-4-13-063379-6

¥3,630〔税込〕



信仰

村田 沙耶香 著
文藝春秋

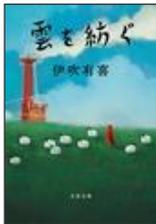
「なあ、俺と、新しくカルト始めない?」 現実こそ正義、好きな言葉は「原価いくら?」の私が、カルト商法を始めようと誘われ…。信じることの危うさと切実さに痺れる、短篇&エッセイ集。『文學界』等掲載を単行本化。

読売新聞 2022/09/25

2022:6./ 155p
978-4-16-391550-0

¥1,320〔税込〕





雲を紡ぐ(文春文庫 い 102-2)

伊吹 有喜 著
文藝春秋

壊れかけた家族は、もう一度、ひとつになれるのか？羊毛を手仕事で染め、紡ぎ、織りあげられた「時を越える布」ホームスパンをめぐる、親子三代の心の糸の物語。スピンオフ「風切羽の色」も収録。

読売新聞 2022/09/25

2022:9./ 430p
978-4-16-791932-0
¥847〔税込〕



仕事をつくる 改訂新版(私の履歴書)

安藤忠雄 著
日経BP社

学歴も社会的基盤もない。仕事は自分でつくらなければならない。独学の建築家が、気力、集中力、目的意識、強い思いを持つことで、自らに課したハードルを越えてきた半生をつづる。代表作品のカラー写真も収録。

読売新聞 2022/09/25

2022:8./ 270p
978-4-296-11463-4
¥2,145〔税込〕



奇跡の六番勝負〜サラリーマンがプロ棋士になった日〜(河出文庫 ふ 17-1)

古田 靖 著
河出書房新社

一度はプロ棋士への道を断たれたものの、アマチュアとしての活動を続け、紆余曲折の末プロ入りを果たした瀬川晶司。彼を支えた将棋を愛する人々が成し遂げた、奇跡のノンフィクション。補記を加えて文庫化。

読売新聞 2022/09/25

2018:8./ 256p
978-4-309-41626-7
¥858〔税込〕



娘に語るお父さんの戦記〜小さな天国の話〜(河出文庫 み 5-6)

水木 しげる 著
河出書房新社

21歳で南方出征。左手を失い、マラリアに苦しみ、何度も生死の境をさまよった。そんな中、自然を畏れ敬い、のびやかに暮らす現地ラバウルの人々に出会う。その生活は「小さな天国」で…。水木しげるが残した戦争の記録。

読売新聞 2022/09/25

2022:7./ 270p
978-4-309-41906-0
¥891〔税込〕



エベレストの空(光文社新書 1210)

上田 優紀 著
光文社

「世界の頂」と呼ばれ、多くの人の心を惹きつけてきたエベレスト。標高8000メートルからの夜明け、緑豊かな麓の街道など、表情豊かなエベレストの全貌を、ネイチャーフォトグラファーが130枚の美しい写真とともに綴る。

読売新聞 2022/09/25

2022:7./ 265p
978-4-334-04618-7
¥1,540〔税込〕





写真図説 占領下の大阪・関西～昭和20年(1945)～昭和30年(1955)～

毎日新聞大阪本社／橋爪 紳也 編
創元社

昭和20年から30年にかけて、大阪を中心に関西2府4県で撮影された約400点の蔵出し写真を、テーマ別に収載。大空襲、敗戦、進駐軍の上陸、米兵の駐留、各施設の接收から解除に至るまでの特異な時代を写真記録で辿る。

読売新聞 2022/09/25

2022:6./ 207p
978-4-422-30095-5

¥2,970〔税込〕



減速する素晴らしい世界

ダニー・ドーリング 著
東洋経済新報社

オックスフォード大学の気鋭の地理学者が、人口、経済、情報、テクノロジー、債務など、膨大なデータを分析。あらゆるものがすでに減速していることを解明し、人口が減少し、イノベーションが停滞した素晴らしい未来を示す。

読売新聞 2022/09/25

2022:7./ 539p
978-4-492-39666-7

¥3,080〔税込〕



歌う民衆と放歌高吟の近代～放歌民衆から唱歌・軍歌を歌う国民へ～

永嶺重敏 著
勉誠出版

古来日本人の生活は歌とともにあったが、明治の文明開化の流れの中で、暴行事件が多発したことにより放歌=辺りかまわず大声で歌うことは、野蛮な行為とみなされ処罰の対象となった。放歌の歴史を資料、多数の図版から紐解く。

読売新聞 2022/09/25

2022:5./ 13p,271p
978-4-585-37003-1

¥3,850〔税込〕



博物館とコレクション管理～ポスト・コロナ時代の資料の保管と活用～

金山 喜昭 編
雄山閣

博物館における資料の収集をはじめ、ドキュメンテーション、保存・修復、収蔵管理、貸借、展示、活用、処分まで、ポスト・コロナ時代のコレクション管理のあり方を考察。コレクションに関する歴史や法制度についても触れる。

読売新聞 2022/09/25

2022:6./ 267p
978-4-639-02830-7

¥3,080〔税込〕



絆-棋士たち～師弟の物語～

野澤 亘伸 著
日本将棋連盟

中田功八段と佐藤天彦九段、畠山鎮八段と斎藤慎太郎八段ら、全7組の師弟を完全取材。棋士が育つ過程を「師弟」の視点から描く。『将棋世界』掲載に杉本昌隆八段と藤井聡太二冠の師弟対談を加えて書籍化。

読売新聞 2022/09/25

2021:3./ 359p 図版
16p

978-4-8399-7538-8

¥1,991〔税込〕





北落師門～句集～

黛 まどか 著

文学の森

落葉して落葉してまだ落葉せる 孤高の星を胸にともし、困難に背を押された激動の10年を振り返る。父・黛執と同じ季語・テーマで詠んだ「親子響詠」句を含む400句を精選した句集。

読売新聞 2022/09/25

2022:7./ 243p
978-4-86737-022-3

¥1,980〔税込〕



麦の記憶～民俗学のまなざしから～

野本 寛一 著

七月社

多様な農耕環境の中で裏作に組み込まれ、米を主役にすえた日本人の食生活を、陰ながら支えてきた麦。現在では失われてしまった、多岐に及ぶ栽培・加工方法、食法、麦にまつわる民俗を、長年のフィールドワークにより蘇らせる。

読売新聞 2022/09/25

2022:6./ 349p
978-4-909544-25-4

¥3,300〔税込〕



葬式消滅～お墓も戒名もいらない～

島田裕巳 著

G. B.

ビジネスとして始まった仏教式の葬式、あまりにも高騰しすぎた戒名料…。葬式はどのように変化したのか。現代の葬式が抱える数々の矛盾や変容する死生観をとらえ、これから故人をどう見送り、弔うかを考える。

読売新聞 2022/09/25

2022:6./ 207p
978-4-910428-19-2

¥1,760〔税込〕



アフガニスタン・ペーパーズ～隠蔽された真実、欺かれた勝利～

クレイグ・ウィットロック 著

岩波書店

数週間で終わるはずだった作戦は、なぜアメリカ史上最長の戦争となったのか。膨大な資料が克明に語るアメリカの無知と傲慢、組織的な情報の改ざん、そして失敗の本質とは…。アフガニスタン戦争の真実を暴き出す。

日本経済新聞 2022/09/03

2022:6./ 22p,368p,9p
978-4-00-061543-3

¥3,960〔税込〕



三国志<1>(吉川英治歴史時代文庫)

吉川 英治 著

講談社

日本では卑弥呼が邪馬台国を統治する頃、中国は後漢も霊帝の代、政治の腐爛は黄巾賊を各地にはびこらせ、民衆は喘ぎ苦しむ。このとき、たく県は楼桑村の一青年劉備は、同志関羽、張飛と桃園に義盟を結び、害賊を討ち、世を救わんことを誓う。——以来100年の治乱興亡に展開する壮大な世紀のドラマ。その華麗な調べと哀婉の情は、吉川文学随一と定評のあるところである。

日本経済新聞 2022/09/03

1989:4./ 511p
978-4-06-196533-1

¥880〔税込〕





とんこつ Q&A

今村 夏子 著

講談社

大将とぼっちゃんが切り盛りする中華料理店とんこつで働き始めたわたし。居場所を見つけたはずだった。あの女が新たに雇われるまでは…。表題作など、人間の取り返しつかない刹那を描いた4篇を収録。『群像』掲載を書籍化。

日本経済新聞 2022/09/03

2022:7./ 220p
978-4-06-528396-7

¥1,650〔税込〕



ポール・ヴァレリーの遺言〜わたしたちはどんな時代を生きているのか?〜

保苅 瑞穂 著

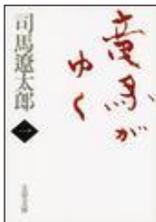
集英社

パリで暮らしたフランス文学の泰斗が邂逅する、さまざまな時代の記憶のなかの人々。激動の時代を生きたポール・ヴァレリーの思索を導きの糸に綴った最後の随想集。『すばる』掲載を書籍化。

日本経済新聞 2022/09/03

2022:7./ 376p
978-4-08-771790-7

¥2,750〔税込〕



竜馬がゆく<1>(文春文庫)

司馬 遼太郎 著

文芸春秋

青春小説の名作が読みやすくなって再登場。前半は、奥手だった幼年期から、剣術修行、脱藩、勝海舟との出会いと海軍塾設立までを描く

日本経済新聞 2022/09/03

1998:9./ 446p
978-4-16-710567-9

¥825〔税込〕



顧客ロイヤルティを知る「究極の質問」(HARVARD BUSINESS SCHOOL PRESS)

フレッド・ライクヘルド、堀 新太郎、鈴木 泰雄 著

武田ランダムハウスジャパン

「NPS」はたった一つの質問を顧客に問うだけで、その本音を引き出し、顧客体験を飛躍的に改善することに全社を集中させることができる。CS調査に革命を起こす「NPS」の全貌を明かす、顧客ロイヤルティ論の新機軸。

日本経済新聞 2022/09/03

2006:9./ 269p
978-4-270-00147-9

¥2,640〔税込〕



推し、燃ゆ

宇佐見 りん 著

河出書房新社

ままならない人生を引きずり、祈るようにアイドル上野真幸を推すばかり。ある日、真幸がファンを殴って炎上し…。デビュー作「かか」が三島賞候補になった21歳の第2作。『文藝』掲載を単行本化。

日本経済新聞 2022/09/03

2020:9./ 125p
978-4-309-02916-0

¥1,540〔税込〕





カモメになったペンギン

ジョン・P. コッター、ホルガー・ラスゲバー、藤原 和博、野村 辰寿 著
ダイヤモンド社

変革を成功させる「8段階の変革プロセス」について、一般の人々にもわかりやすいよう、寓話で紹介する。不利な条件の中でペンギンの群れがこの変革プロセスを活用する様子から、危機を乗り越えるために必要な変革力を学ぶ。

日本経済新聞 2022/09/03

2007:10./ 101p
978-4-478-00034-2

¥1,320〔税込〕



考える技術・書く技術～問題解決力を伸ばすピラミッド原則～ 新版

バーバラ・ミント、グロービス・マネジメント・インスティテュート、山崎 康司 著
ダイヤモンド社

マッキンゼー社をはじめ、世界の主要コンサルティング会社でライティング指導にあたる著者が、独自のピラミッド原則で問題解決能力とコミュニケーション能力を伸ばす方法を解説する。1995年刊の新版。

日本経済新聞 2022/09/03

1999:3./ 289p
978-4-478-49027-3

¥3,080〔税込〕



箸もてば(ちくま文庫 い73-2)

石田 千 著
筑摩書房

ひとくちめのビールが喉もとすぎる。会えなくなったひとにも会える-。食べることは日々の命の賛歌。食べ物をめぐる、四季折々の恵みの出会いと喜びを、滋味深い文章で綴る。書下ろし「巣ごもりの四季」も収録。

日本経済新聞 2022/09/03

2022:8./ 238p
978-4-480-43825-6

¥902〔税込〕



パーパス経営～30年先の視点から現在を捉える～

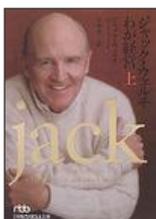
名和 高司 著
東洋経済新報社

資本主義の先の姿を、志を基軸とした「志本主義(パーパスイズム)」と呼び、志本経営の基本理念を概観。海外と日本の志本経営の先進事例や志本経営を実践するうえでの課題を論じ、志本経営を主軸とした日本再生の道を提言する。

日本経済新聞 2022/09/03

2021:4./ 6p,508p,14p
978-4-492-53436-6

¥3,080〔税込〕



ジャック・ウェルチわが経営<上>(日経ビジネス人文庫)

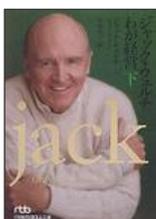
ジャック・ウェルチ、ジョン・A. バーン、宮本 喜一 著
日本経済新聞出版社

日本経済新聞 2022/09/03

2005:5./ 386p 図版

12p
978-4-532-19287-7

¥838〔税込〕



ジャック・ウェルチわが経営<下>(日経ビジネス人文庫)

ジャック・ウェルチ、ジョン・A. バーン、宮本 喜一 著
日本経済新聞出版社

日本経済新聞 2022/09/03

2005:5./ 426p 図版

12p
978-4-532-19288-4

¥838〔税込〕





紅い帝国の論理～新全体主義に隠されたもの～

張博樹 著
白水社

中国の「新全体主義」は、世界にいかなる影響を及ぼすのか？ 悪のソフトパワーとしての「中国式病毒」や南シナ海問題、強圧的な外交、「中国的な特色」に満ちた政治経済に縦横無尽に切りこむ、新冷戦時代の国際政治経済論。

日本経済新聞 2022/09/03

2022:8./ 247p,13p
978-4-560-09444-0

¥3,960〔税込〕



世界はさわらないとわからない～「ユニバーサル・ミュージアム」とは何か～ (平凡社新書 1008)

広瀬 浩二郎 著
平凡社

コロナ禍の2021年に実施されたさわる展覧会、「ユニバーサル・ミュージアム-さわる!触」の大博覧会。展覧会を企画した全盲の人類学者が怒濤の日々を振り返る。テキストデータ引換券、ジャケット表紙に点字あり。

日本経済新聞 2022/09/03

2022:7./ 269p
978-4-582-86008-5

¥1,034〔税込〕



チーズはどこへ消えた？

スペンサー・ジョンソン 著
扶桑社

「迷路」の中に住み、「チーズ」を探す二人と二匹の物語。時代や状況の急激な変化にいかに対応すべきかといった、人生の様々な局面を象徴している。世界のトップ企業が研修テキストに採用している寓話。〈ソフトカバー〉

日本経済新聞 2022/09/03

2000:11./ 94p
978-4-594-03019-3

¥921〔税込〕



ダボスマン～世界経済をぶち壊した億万長者たち～

ピーター・S・グッドマン 著
ハーパーコリンズ・ジャパン

ダボス会議に集う、名だたる億万長者たち「ダボスマン」。彼らはどのようにして世界のルールを作ってきたのか。5人のダボスマンの足取りを追い、グローバル資本主義の今と未来を正しく読み解くための21要素を解説する。

日本経済新聞 2022/09/03

2022:6./ 485p
978-4-596-70832-8

¥2,420〔税込〕



成しとげる力

永守 重信 著
サンマーク出版

分不相応でもかまわない。大言壮語でもいいから、気宇壮大な夢を抱き、その夢をあきらめずもち続けること。日本電産を世界に名だたる総合モーターメーカーに育てた著者が、「成しとげる力」をつけるためのヒントを伝える。

日本経済新聞 2022/09/03

2021:11./ 275p
978-4-7631-3931-3

¥1,980〔税込〕





活動芸術論

卯城竜太 著

イースト・プレス

いまやアクション(活動芸術)あるのみ! Chim↑Pom の元リーダー・卯城竜太が、芸術における「アクション」という表現形態と、社会全体にみられる「個と公」の関係を主題に、自身にまつわる実践を論じる。

日本経済新聞 2022/09/03

2022:7./ 571p,8p
978-4-7816-2064-0

¥3,520〔税込〕



アイドルについて葛藤しながら考えてみた〜ジェンダー/パーソナリティ<押し〜

香月 孝史/上岡 磨奈/中村 香住 著

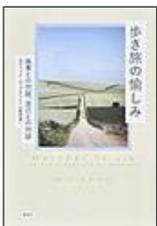
青弓社

多様な実践が人気を集めるアイドル。だが、恋愛禁止などアイドルに抑圧を強いる問題も存在する。アイドルの面白さと可能性、困難と問題性について、肯定・否定ではなく「葛藤しながら考える」ことの可能性を拓くための試論集。

日本経済新聞 2022/09/03

2022:7./ 223p
978-4-7872-7449-6

¥1,760〔税込〕



歩き旅の愉しみ〜風景との対話、自己との対話〜

ダヴィッド・ル・ブルトン 著

草思社

人間は今や、座ったまま退屈している。歩き旅をこよなく愛するフランスの社会学者が、「歩く愉悅」を多角的に考察。「歩くこと」「旅すること」の可能性をさまざまに深掘りした思索の書。

日本経済新聞 2022/09/03

2022:7./ 237p,7p
978-4-7942-2591-7

¥2,200〔税込〕



なぜ新型コロナウイルスが、次々と世界を襲うのか?〜パンデミックの生態学〜

マリー＝モニク・ロバン 著

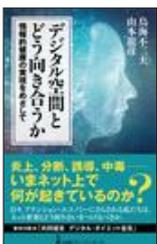
作品社

なぜ“新型コロナ”が出現したのか。今後、さらに破局的な“新たなウイルス”が人類を襲うのか。パンデミックへの真の対策は。世界最先端の専門家が、新型コロナウイルスの実態と発生メカニズムを明らかにする。

日本経済新聞 2022/09/03

2022:6./ 356p
978-4-86182-921-5

¥2,970〔税込〕



デジタル空間とどう向き合うか〜情報的健康的実現をめざして〜(日経プレミアシリーズ 478)

鳥海不二夫/山本龍彦 著

日経BP社

インターネットは利便性を高める一方で、私たちの「健康」を蝕んでいる。計算社会科学者と憲法学者が、デジタル空間に潜むさまざまな問題点を指摘し、解決への糸口を探る。巻末に「共同提言デジタル・ダイエット宣言」を掲載。

日本経済新聞 2022/09/03、朝日新聞 2022/09/24

2022:7./ 275p
978-4-296-11433-7

¥990〔税込〕





略奪の帝国～東インド会社の興亡～<上>

ウィリアム・ダルリンプル 著

河出書房新社

18世紀、インドの莫大な富を目当てにやってきたイギリス東インド会社は、一介の商社にも関わらず、巧妙に立ち回り、大規模な軍隊を所有し、広大なインドの全域を征服した。現代の企業暴力の末路を歴史から予言する。

日本経済新聞 2022/09/03、読売新聞 2022/09/25

2022:6./ 339p 図版

16p

978-4-309-22856-3

¥4,235〔税込〕



略奪の帝国～東インド会社の興亡～<下>

ウィリアム・ダルリンプル 著

河出書房新社

18世紀、インドの莫大な富を目当てにやってきたイギリス東インド会社は、一介の商社にも関わらず、巧妙に立ち回り、大規模な軍隊を所有し、広大なインドの全域を征服した。現代の企業暴力の末路を歴史から予言する。

日本経済新聞 2022/09/03、読売新聞 2022/09/25

2022:6./ 291p 図版

32p

978-4-309-22857-0

¥4,235〔税込〕



応援消費～社会を動かす力～(岩波新書 新赤版 1934)

水越 康介 著

岩波書店

ふるさと納税、推しのアイドル…。消費することで応援しようとする新しい「お金の使い方」が、社会を動かす大きなエネルギーとなっている。この応援消費に焦点を当て、新時代のマーケティング思考のメカニズムを解説する。

日本経済新聞 2022/09/10

2022:7./ 13p,205p

978-4-00-431934-4

¥968〔税込〕



太平洋戦争秘史～周辺国・植民地から見た「日本の戦争」～(朝日新書 877)

山崎雅弘 著

朝日新聞出版

アジア・北米・中南米諸国が直面していた政治的・軍事的状況をとおして、太平洋戦争の「日米英仏中ソ」の軍事戦略・政治工作・戦闘の詳細を解明。「日本の戦争」を多面的・複眼的に読み解く。

日本経済新聞 2022/09/10

2022:8./ 443p

978-4-02-295184-7

¥1,320〔税込〕



人間の営みがわかる地理学入門(角川ソフィア文庫 K138-2)

水野 一晴 著

KADOKAWA

50カ国以上を飛び回り、世界中の人々と交流を重ねてきた著者が、自身の体験と観察をもとに各国各地域の「人間の営み」を紹介。住む地域によって様々に異なる暮らしを、地形、気候や歴史を紐解きながら解説する。

日本経済新聞 2022/09/10

2022:6./ 296p

978-4-04-400706-5

¥1,034〔税込〕





英文法詳解 新装復刻版

杉山 忠一 著
学研プラス

往年の英語達人たちが愛し、今もなお絶賛され続ける英文法の決定版、ここに復刻。本書は長らく絶版であった『英文法詳解』の新装復刻版です。『英文法詳解』の前身となる名著『英文法の完全研究』から引き継がれる著者の執筆方針は次のようなものです。 1. 英文読解、和文英訳の役に立つこと《実用性の重視》 2. 英語の実情に即した文法であること《独断的なルールの排除》 3. 日本語を中心にしての解説 「補足」「研究」「参考」など内容のレベルに応じて書き分けられた詳しい解説は、大学合格を目指す高校生、受験生、英文法を深く学びたい大学生、教壇に立つ先生、自己研鑽のため、あるいは生涯学習の一環として英語に向き合う一般の方など、あらゆる英語学習者のお役に立てるものです。10年の時を超え復刊した本書を手にとれたみなさまの英文法の理解と興味を深める一助となれば幸いです。

日本経済新聞 2022/09/10

2022:7./ 691p
978-4-05-305593-4
¥2,640〔税込〕



医療崩壊真犯人は誰だ(講談社現代新書 2642)

鈴木 亘 著
講談社

いざという時に働かない一部の開業医、旧態依然の保健所、現場を把握できない厚生労働省、緊急事態宣言しか提言できない日本医師会…。世界有数の医療大国・日本が、医療提供体制の崩壊、危機的状況に陥った謎に迫る。

日本経済新聞 2022/09/10

2021:11./ 187p
978-4-06-526417-1
¥946〔税込〕



日本再生のための「プラン B」～医療経済学による所得倍増計画～(集英社新書 1061)

兪 炳匡 著
集英社

新たな分野で雇用を創出。1%の富裕層ではなく、99%の生活を豊かにする！現状を見据え、既存の成功モデルに頼らない日本再生のアイデアを具体的に提示。さらに、日本が生き残る道として北東アジア経済共同体を構想する。

日本経済新聞 2022/09/10

2021:3./ 301p
978-4-08-721161-0
¥1,012〔税込〕



瓢箪から人生

夏井 いつき 著
小学館

師匠となる黒田杏子との出会いや父親の思い出、夢枕獏との意外な交流…。夏井いつきが、これまでの人生で出会った忘れ得ぬ人たちを綴った全45編のエッセイ。『女性セブン』連載に書き下ろしを加え書籍化。

日本経済新聞 2022/09/10

2022:8./ 335p
978-4-09-388866-0
¥1,485〔税込〕





榆家の人びと<第1部>(新潮文庫 き-4-57)

北 杜夫 著
新潮社
日本経済新聞 2022/09/10

2011:7./ 366p
978-4-10-113157-3
¥649〔税込〕



大久保利通〜「知」を結ぶ指導者〜(新潮選書)

瀧井 一博 著
新潮社
富国強兵と殖産興業に突き進んだ強権的な指導者像の裏で、人の才を見出して繋ぎ、地方からの国づくりを目指した大久保利通。膨大な史資料を読み解き、「知の政治家」としての新たなイメージを浮かび上がらせる。

2022:7./ 521p,5p
978-4-10-603885-3
¥2,420〔税込〕



日本経済新聞 2022/09/10



天安門ファイル〜極秘記録から読み解く日本外交の「失敗」〜

城山 英巳 著
中央公論新社
天安門事件という戦後日中関係の「分水嶺」に日本の首相、官邸、外務省、北京の現場外交官、警察官僚らは「中国」をどう認識し、行動したのか。日本の極秘記録と政策当事者の証言に基づいて検証し、歴史の教訓を読み解く。

2022:7./ 390p
978-4-12-005549-2
¥2,420〔税込〕



日本経済新聞 2022/09/10



パンデミックなき未来へ〜僕たちにできること〜

ビル・ゲイツ 著
早川書房
グローバルな病原体監視体制、治療薬・ワクチン・医療システムのイノベーション。僕たちはもはやパンデミックに怯えて暮らす必要はない。世界随一の頭脳が、最新科学とデータをもとに、コロナ後の世界のビジョンを提示する。

2022:6./ 364p
978-4-15-210144-0
¥2,640〔税込〕



日本経済新聞 2022/09/10



天安門文書

張 良、アンドリュー・J・ネイサン、ペリー・リンク、山田 耕介、高岡 正展 著
文芸春秋
趙紫陽総書記の解任、戒厳令の発令、江沢民の後継者指名、そして「血の弾圧」…。当時の指導者たちはどんな議論をし、誰が最終決断を下したのか。密室の会話をスッパ抜き、中国政府はもとより世界を震撼させた極秘文書の全訳。

2001:11./ 477p
978-4-16-358130-9
¥2,828〔税込〕



日本経済新聞 2022/09/10



AI新世～人工知能と人類の行方～(文春新書 1371)

小林 亮太、篠本滋 著
文藝春秋

驚異的な速度でAIが発展し、社会に決定的な影響を及ぼす時代、「AI新世」。多くの事例からいまAIに何ができるか、最新の見取り図を示すとともに、人工知能研究の歴史を踏まえ「AIは人間を超えるのか」を考察する。

日本経済新聞 2022/09/10

2022:8./ 280p
978-4-16-661371-7
¥1,078 [税込]



ジュニア英文典 新装復刊

毛利 可信 著
研究社

すべては基本から。オールラウンドな英語力を養えるよう、英文法の基本を、首尾一貫した原理と生き生きとした例文でわかりやすく解説する。練習問題、語句索引も充実。英文法書の名著。

日本経済新聞 2022/09/10

2022:6./ 16p,354p
978-4-327-45311-4
¥2,420 [税込]



秘録齋藤次郎～最後の大物官僚と戦後経済史～

倉重篤郎 著
光文社

大蔵省で「10年に1人の逸材」と呼ばれた「役人の中の役人」、その胸の内は-。財政再建、政界再編のキーパーソン・齋藤次郎が初めて重い口を開く。齋藤に最も食い込んだ政治記者による伝記的ノンフィクション。

日本経済新聞 2022/09/10

2022:7./ 248p
978-4-334-95321-8
¥1,650 [税込]



現代文解釈の基礎～着眼と考え方～ 新訂版(ちくま学芸文庫 エ 17-1)

遠藤 嘉基、渡辺 実 著
筑摩書房

半世紀近くわたって読み継がれた現代文教本。数々の小説や評論を題材に、重要な箇所をどのように見分けるかを、実演を織り交ぜながら徹底的に解説する。高校教科書の定番教材も多数収録。

日本経済新聞 2022/09/10

2021:10./ 476p
978-4-480-51073-0
¥1,650 [税込]



日本の医療は変えられる

伊藤 元重、総合研究開発機構 著
東洋経済新報社

限られた医療資源をどう使うか。そのカギは、産業化と地域連携にある。医学、経済学などの専門家11人が、大胆な発想転換で、高齢化社会に適した制度改革を提言する。

日本経済新聞 2022/09/10

2009:12./ 255p
978-4-492-70125-6
¥2,640 [税込]





王妃に別れをつけて〜海外小説の誘惑〜(白水Uブックス 180)

シャンタル・トマ 著
白水社

1789年7月14日、フランス革命の勃発によって、優雅で豪華な夢の世界が崩れ始める…。マリー・アントワネットの朗読係アガートの目を通して描く、ヴェルサイユ運命の3日間。2012年12月公開映画の原作小説。

2012:11./ 297p
978-4-560-07180-9
¥1,430〔税込〕



日本経済新聞 2022/09/10



作家たちのフランス革命

三浦 信孝 編
村田 京子/小野 潮/柏木 隆雄/西永 良成/エリック・アヴォカ/関谷 一彦 著
白水社

同時代から21世紀にいたるフランスの作家たちは、フランス革命をどのように眼差し、描いてきたのか。スタール夫人からシャンタル・トマまで7人の作品を取り上げ、論考する。2021年開催のシンポジウムを書籍化。

2022:7./ 242p,2p
978-4-560-09445-7
¥2,750〔税込〕



日本経済新聞 2022/09/10



日本海ヘルスケアネットの「医療と福祉」大連合〜想定外のリスクにも即時対応〜

「財界」編集部 著
財界研究所

超高齢化・過疎化に対応するために山形県北庄内地域の10法人が参加し、2018年に発足した地域医療連携推進法人「日本海ヘルスケアネット」。その先進的な取り組みを、関係者のインタビューとともに紹介する。

2020:6./ 203p
978-4-87932-139-8
¥1,650〔税込〕



日本経済新聞 2022/09/10



読書会という幸福(岩波新書 新赤版 1932)

向井 和美 著
岩波書店

全員が同じ作品を読んで語り合う会に30年近く途切れることなく参加してきた著者が、その「魂の交流の場」への想いを味わい深い文章で綴る。ほかの読書会への潜入ルポ、読書会課題本リストなども収録。

2022:6./
13p,225p,11p
978-4-00-431932-0
¥946〔税込〕



日本経済新聞 2022/09/17



エネルギーの地政学(朝日新書 875)

小山堅 著
朝日新聞出版

ウクライナ侵攻を契機に世界中に広まったエネルギー危機。複雑な対立や利害を内包するこの問題を、地政学の切り口で論じ、日本がどのような政策や外交を行い、安全保障上の危機に対峙していくかを提言する。

2022:8./ 315p
978-4-02-295183-0
¥1,001〔税込〕



日本経済新聞 2022/09/17



ザエクセレントカンパニー～新・燃ゆるとき～(角川文庫)

高杉 良、片岡 忠彦 著
角川書店

「サンマル」ブランドで知られる食品メーカー大手の東邦水産は、即席麺の米国工場建設を目指していた。「人を大事にする」経営理念のもと、市場原理主義の本場・米国進出に賭けた日本人ビジネスマンの奮闘！

日本経済新聞 2022/09/17

2005.9./ 479p
978-4-04-164320-4

¥733〔税込〕



世界最大の気象情報会社になった日

石橋博良 著
講談社

これからのマルチメディアの時代は、すべての情報がわけ隔てなく人々に開示される情報化社会となる。地球的発想法で気象情報会社を設立した著者が、設立までの過程とニュービジネスを生み出すヒントを語る。

日本経済新聞 2022/09/17

1995.8./ 252p
978-4-06-207426-1

¥1,601〔税込〕



相談役島耕作<1>(モーニング KC)

弘兼 憲史 著
講談社

日本を代表する電機メーカー・テコットの会長を退いた島耕作は相談役に就任。テコットの枠にとどまらず日本の経済活動に貢献したいと考える島耕作。東京五輪が迫る中、その視野にとらえたのはスポーツ界だった。旧態依然のアマチュアスポーツ界に優れた経営ビジョンを持ち込むことで変革を起こそうとしている人間たちがいる。「スポーツは教育」「スポーツで金儲けはしない」——そんな凝り固まった考えの社会に風穴を空けろ。2020年の東京オリ・パラ、その後のスポーツビジネスを見据えて、島は動き始める。一方、テコット内部では新社長・風花凜子への風当たりが日増しに強くなり怪文書が出る始末——その時、島耕作は！？

日本経済新聞 2022/09/17

2020.3./ 191p
978-4-06-518912-2

¥704〔税込〕



目に見えない戦争～デジタル化に脅かされる世界の安全と安定～(講談社選書メチエ 768)

イヴォンヌ・ホフシュテッター 著
講談社

デジタル空間における諜報・妨害を目的とするサイバー攻撃、ドローン兵器、キラーロボット…。国家と民間の区別すら消失させて進行する見えない戦争の「今」を、ビッグデータの専門家が赤裸々に描き出す。

日本経済新聞 2022/09/17

2022.7./ 337p
978-4-06-528923-5

¥2,200〔税込〕



水滸伝<1> 曙光の章(集英社文庫)

北方 謙三 著
集英社

日本経済新聞 2022/09/17

2006.10./ 388p
978-4-08-746086-5

¥858〔税込〕





日の名残り(ハヤカワ epi 文庫)

カズオ・イシグロ 著

早川書房

短い旅に出た老執事が、美しい田園風景のなか古き佳き時代を回想する。長年仕えた卿への敬慕、執事の鑑だった亡父、女中頭への淡い想い、二つの大戦の間に邸内で催された重要な外交会議の数々……。遠い思い出は輝きながら胸のなかで生き続ける。失われゆく伝統的英国を描く英国最高の文学賞、ブッカー賞受賞作。解説／丸谷才一

日本経済新聞 2022/09/17

2001.5./ 365p
978-4-15-120003-8

¥836〔税込〕



われら闇より天を見る

クリス・ウィタカー 著

早川書房

自称「無法者」の少女ダッチェスと、過去に囚われた警察署長ウォーク。彼女たちの町では30年前、ひとりの少女が命を落とす事件が起きた。事件で逮捕された男が刑期を終えて町に帰ってくると、新たな悲劇が...

日本経済新聞 2022/09/17

2022.8./ 518p
978-4-15-210157-0

¥2,530〔税込〕



すべての企業人のためのビジネスと人権入門

羽生田 慶介 著

日経BP社

「脱炭素」の次は「人権」！児童労働・差別表現・ハラスメントなど、企業が「ビジネスと人権」に取り組むための基礎知識と、具体的な実践方法、「人権リスク対策」を通じてビジネスを拡大するためのヒントを徹底解説する。

日本経済新聞 2022/09/17

2022.8./ 295p
978-4-296-00104-0

¥2,200〔税込〕



スカートのアンソロジー～朝倉かすみリクエスト!～(光文社文庫 あ53-6)

朝倉 かすみ 編

朝倉かすみ／北大路公子／佐藤亜紀／佐原ひかり／高山羽根子／津原泰水／中島京子／藤野可織／吉川トリコ 著

光文社

読書家にして市井の名もなき男女の機微を自在に描く朝倉かすみ、人気作家たちに「お願い」して誕生した、「スカート」モチーフのアンソロジー。中島京子「本校規定により」など全9編を収録。

日本経済新聞 2022/09/17

2022.8./ 279p
978-4-334-79401-9

¥748〔税込〕



日本の中絶(ちくま新書 1677)

塚原 久美 著

筑摩書房

世界が中絶の権利を人権として認める流れにあるなか、日本では女性差別的イデオロギーが社会に影を落としている。経口中絶薬の承認から配偶者同意要件まで、日本における中絶の問題点と展望を示す。

日本経済新聞 2022/09/17

2022.8./ 238p
978-4-480-07499-7

¥990〔税込〕



栄光と狂気～オリンピックに憑かれた男たち。～

デーヴィド・ハルバースタム、土屋政雄 著
CCCメディアハウス
日本経済新聞 2022/09/17

1987:8./ 266p
978-4-484-87133-2
¥1,762〔税込〕



「ゴキブリ嫌い」だったけどゴキブリ研究はじめました

柳澤静磨 著
イースト・プレス
飼育にゾクゾク、解剖にクタクタ。それでも“G”と生きる理由とは？ ゴキブリ嫌いだった著者がゴキブリ研究を始め、35年ぶりに日本産ゴキブリの新種を発見するまでの道のりを紹介するとともに、ゴキブリの真の姿に迫る。

2022:7./ 191p
978-4-7816-2095-4
¥1,650〔税込〕



日本経済新聞 2022/09/17



デクリネゾン

金原ひとみ 著
ホーム社
2度の離婚を経て、中学生の娘と2人で暮らすシングルマザーの小説家。最近付き合い始めた大学生と一緒に暮らしたいと娘に告げるが…。恋愛する母たちの孤独と不安と欲望を描いた長編小説。『HB』連載を単行本化。

2022:8./ 349p
978-4-8342-5361-0
¥1,980〔税込〕



日本経済新聞 2022/09/17



動物のペニスから学ぶ人生の教訓

エミリー・ウィリンガム 著
作品社
生物学者が、動物の交尾行動に関するさまざまなエピソードを交えながら、現代にまだまだびこる男根幻想と戦う科学読み物。驚きに満ちた動物のペニスの世界から、ヒトの“それ”とどう付き合うべきかが見えてくる。

2022:8./ 286p,52p
978-4-86182-925-3
¥2,970〔税込〕



日本経済新聞 2022/09/17



三国志<1の巻> 天狼の星(ハルキ文庫)

北方謙三 著
角川春樹事務所
日本経済新聞 2022/09/17

2001:6./ 333p
978-4-89456-868-6
¥628〔税込〕



リュウジ式至高のレシピ～人生でいちばん美味しい！～

リュウジ 著
ライツ社
味噌汁ではなくモツ煮のやり方で作る豚汁、味つけは「煮詰めたケチャップ」だけのナポリタン…。定番料理が見たことのないアイデアで人生最高の味にキマる至高のレシピを紹介。工程はプロセス写真で丁寧に解説する。

2021:12./ 191p
978-4-909044-34-1
¥1,650〔税込〕



日本経済新聞 2022/09/17



豪商の金融史～廣岡家文書から解き明かす金融イノベーション～

高槻 泰郎 著
慶應義塾大学出版会

世界の先物市場の先駆けともいわれる堂島米市場、大名貸、銀行業、保険業と、日本の金融史に深く関わっている大坂の豪商、廣岡家。廣岡家にまつわる史料を読み解き、日本の金融市場の歴史を辿る。

日本経済新聞 2022/09/17、朝日新聞 2022/09/24

2022:7./ 317p,3p
978-4-7664-2833-9

¥2,970〔税込〕



仏教の大東亜戦争(文春新書 1365)

鶴飼 秀徳 著
文藝春秋

なぜ仏教は国民を“殺生”に駆り立てたのか。仏教界が生存をかけて、いかに国家にすり寄り、植民地政策や戦争に加担し、自らを正当化していったのかを、具体事例とともに分かりやすく紐解く。

日本経済新聞 2022/09/24

2022:7./ 286p
978-4-16-661365-6

¥1,210〔税込〕



人口減少社会のデザイン

広井 良典 著
東洋経済新報社

借金の先送り、格差拡大、社会的孤立の進行。2050年、日本は持続可能か？ 日立京大ラボのAIによる未来シミュレーションをもとに、財政・社会保障から環境・資源まで、日本が持続可能であるための条件や政策を提言する。

日本経済新聞 2022/09/24

2019:9./ 315p
978-4-492-39647-6

¥1,980〔税込〕



僕らが学校に行く理由～ワイド版～(ポプラ社ノンフィクション 生きかた42)

渋谷 敦志 著
ポプラ社

これまで世界各国の子どもたちにレンズを向けてきた写真家・渋谷敦志が、紛争、貧困、災害といった逆境に負けずに学ぼうとする子どもたちを追ったルポ。学ぶことの意味を読者とともに考える。

日本経済新聞 2022/09/24

2022:8./ 189p
978-4-591-17423-4

¥2,420〔税込〕



人口減少社会の地域経営政策

川島 典子/原田 徹/鄭 年皓/谷畑 英吾/桜井 政成/岡本 悦司/軍司 聖詞/倉本 到/滋野 浩毅/鈴木 康久/寺本 英仁 著
晃洋書房

地域の課題を解決するための「地域経営」について、政策、地方自治、経済、医療福祉、NPO、文化観光、まちづくり、情報学などさまざまな視点から提言。福知山市、南丹市などの事例も紹介する。

日本経済新聞 2022/09/24

2022:7./ 6p,206p
978-4-7710-3640-6

¥3,080〔税込〕





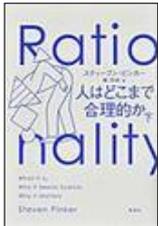
人はどこまで合理的か<上>

スティーブン・ピンカー 著
草思社

陰謀論やフェイクニュースを信じるような人間の非合理性には、ある種の理由やパターンがある。間違いを減らし、人生と世界を豊かにするにはどう理性を働かせればよいかを解説する。ハーバード大学の人気講義から生まれた本。

日本経済新聞 2022/09/24

2022.7./ 286p
978-4-7942-2589-4
¥2,090〔税込〕



人はどこまで合理的か<下>

スティーブン・ピンカー 著
草思社

理性こそが、進歩と繁栄を導く。理性的思考のための最強ツール群を、倫理学や経済学、統計学、ゲーム理論など幅広い学問から抽出し、その考え方を解説する。

日本経済新聞 2022/09/24

2022.7./ 301p
978-4-7942-2590-0
¥2,090〔税込〕



カリブ海の黒い神々～キューバ文化論序説～

越川芳明 著
作品社

詩、絵画、映画、宗教、逃亡奴隷、移民、製糖…。アフロ宗教の司祭の資格を持つ著者によるキューバ論。ディアスポラの文化や歴史を縦横に論じ、「老人と海」のまったく新たな読み解きへと誘う。

日本経済新聞 2022/09/24

2022.8./ 344p
978-4-86182-926-0
¥2,970〔税込〕



関係人口の社会学～人口減少時代の地域再生～

田中輝美 著
大阪大学出版会

住む人が減ったら、地域は再生できないのか？ 関係人口を社会学の見地から定義し、その役割を論じた書。事例と新たな理論の枠組みによって関係人口を位置づけ直し、人口減少時代の地域再生の方向性を示す。

日本経済新聞 2022/09/24

2021.4./ 385p
978-4-87259-729-5
¥3,520〔税込〕



終戦日記一九四五(岩波文庫 32-471-2)

エーリヒ・ケストナー 著
岩波書店

大人は子どもよりも愚かではないか？ 「エーミールと探偵たち」などで知られる児童文学者エーリヒ・ケストナーが、第三帝国末期から終戦直後にかけて右往左往する大人たちの姿を皮肉とユーモアたっぷりに描き出す。

毎日新聞 2022/09/03

2022.6./ 368p
978-4-00-324712-9
¥1,067〔税込〕



わしらは怪しい探険隊(角川文庫)

椎名 誠 著

角川書店

おれわあいくぞう ドバドバだぞお.....潮騒うずまく伊良湖の沖に、やって来ました
「東日本なんでもケトばす会」ご一行。ドタバタ、ハチャメチャ、珍騒動の連日連
夜。男だけのおもしろ世界。

毎日新聞 2022/09/03

1982:6./ 234p
978-4-04-151001-8

¥572〔税込〕



<世界史>の哲学<現代篇 1> フロイトからファシズムへ

大澤 真幸 著

講談社

近代の延長線上に現れる大きな断絶と恐怖。その端緒は精神分析理論におけるフロイトの「転回」にある。精神分析の誕生劇と、ファシズムが生まれたメカニズムを描出する。『群像』連載を書籍化。

毎日新聞 2022/09/03

2022:7./ 349p
978-4-06-528448-3

¥2,420〔税込〕



韓国軍はベトナムで何をしたか(小学館新書 424)

村山 康文 著

小学館

ベトナム戦争における韓国軍の加害行為。事件について報じた韓国メディアが韓国軍の退役軍人に襲撃されるなど、タブーとされてきた。被害者や遺族、そして加害者側への取材を積み重ね、封印された真実に迫る。

毎日新聞 2022/09/03

2022:8./ 286p
978-4-09-825424-8

¥990〔税込〕



ループ・オブ・ザ・コード

荻堂 顕 著

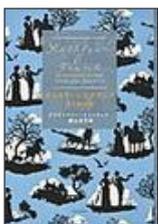
新潮社

疫病禍を経験した未来。WEO(世界生存機関)に所属するアルフォンソは、かつて<抹消>を経験した国家<イグノラビムス>での現地調査を命じられる。謎の病とテロ事件に襲われた彼の国に隠された真相とは。近未来諜報小説。

毎日新聞 2022/09/03

2022:8./ 408p
978-4-10-353822-6

¥2,090〔税込〕



キャスリーンとフランク～父と母の話～

クリストファー・イシャウッド 著

新潮社

小説家クリストファー・イシャウッドの母は、ワイン製造業を営む裕福な家に生まれた快活な女性。父は相続資産のない貴族の次男。母の日記と父の手紙を丹念に読み解き、英国社会史もつぶさに描いたイシャウッド家の回顧録。

毎日新聞 2022/09/03

2022:6./ 533p
978-4-10-507281-0

¥5,390〔税込〕





平氏〜公家の盛衰、武家の興亡〜(中公新書 2705)

倉本 一宏 著
中央公論新社

日本史にとって平氏の存在感は大きい。平朝臣の姓を与えられた天皇の子孫たちに始まり、朝廷に対して反乱を起こした平将門、公卿・実務官人として京都で活躍した堂上平氏など、公家・武家にわたる平氏の全貌を描く。

毎日新聞 2022/09/03

2022:7./ 4p,288p
978-4-12-102705-4

¥1,012〔税込〕



ドリフターズとその時代(文春新書 1364)

笹山 敬輔 著
文藝春秋

視聴率 50%を超えたお化け番組「全員集合」はどのように生まれたのか。“完璧主義者”いかりや長介の演出術、喜劇王・志村けん...。気鋭の演劇研究者が、国民的グループ「ザ・ドリフターズ」を舞台・演劇の視点から読み解く。

毎日新聞 2022/09/03

2022:6./ 302p
978-4-16-661364-9

¥968〔税込〕



周作人自伝

周 作人 著
河出書房新社

20世紀中国を代表する作家・日本研究者であり、兄・魯迅に比肩する知日派文人作家による自伝。家族の思い出や日露戦争前後の文化史的考察などを、日本人や中国人、中国の文学・政治に対する深い洞察とともに綴る。

毎日新聞 2022/09/03

2022:7./ 565p
978-4-309-20854-1

¥13,200〔税込〕



映画を早送りで見ると...ファスト映画・ネタバレ-コンテンツ消費の現在形〜(光文社新書 1192)

稲田豊史 著
光文社

つまらなそうと感じたら後はずっと 1.5 倍速、会話のないシーンは即飛ばす、観る前にネタバレサイトをチェック...。一体何がそうした映画や映像の視聴スタイルを生んだのか？あまりに巨大すぎる消費社会の実態をあぶり出す。

毎日新聞 2022/09/03

2022:4./ 302p
978-4-334-04600-2

¥990〔税込〕



戦国城郭に秘められた呪いと祈り

小和田 哲男 著
山川出版社

立地、縄張、建造物、儀式にいたるまで、全国各地の城郭に見え隠れする「信仰の場」としての姿。信仰の世界、陰陽道、呪いや祈りといった観点で城郭史をとらえ直す。

毎日新聞 2022/09/03

2022:7./ 207p
978-4-634-15199-4

¥1,980〔税込〕





人間関係のモヤモヤは3日で片付く〜忘れられない嫌なヤツも、毎日顔を合わせる夫も〜(BAMBOO ESSAY SELECTION)

田房 永子 著
竹書房

“あの人”に気を取られ、「自分の時間を無駄にしない」ための11の解決法。

毎日新聞 2022/09/03

2022:7./ 188p
978-4-8019-3171-8
¥1,320〔税込〕



音楽が鳴りやんだら

高橋 弘希 著
文藝春秋

天賦の作詞作曲の才に恵まれた福田葵。バンドのデビューのために幼馴染を外すことを選ぶ。その瞬間から音楽の神は葵にますます愛を注ぎ、あるいは天罰を下す。『文學界』連載に全面的な訂正をほどこして単行本化。

毎日新聞 2022/09/03、産経新聞 2022/09/11、読売新聞 2022/09/18

2022:8./ 388p
978-4-16-391581-4
¥2,090〔税込〕



直立二足歩行の人類史〜人間を生き残らせた出来の悪い足〜

ジェレミー・デシルヴァ 著
文藝春秋

なぜ人間だけが二足歩行動物として生き延びたのか。足・足首を専門とする人類学者が、古人類学のレジェンドから現代人の歩き方まで、研究現場を訪ね歩いてたどりついた、「二本足が人間に人間性をもたらした」真実を伝える。

毎日新聞 2022/09/03、日本経済新聞 2022/09/17

2022:8./ 437p
978-4-16-391583-8
¥2,860〔税込〕



9時にはおうちに帰りたい<1>(KCデラックス Kiss)

青色イリコ 著
講談社

今日も9時には帰れない...だって、残業しながらのおしゃべりがとまらないから...!! 女子とオバさんの狭間での葛藤から、暗黒の20代後半ファッション迷子話、実は正しい化粧の仕方がわからない告白まで、どーでもいいけど大切なアラサー女子のただただ話4コマ! 今日も9時には帰れない...だって、残業しながらのおしゃべりがとまらないから...!! 女子とオバさんの狭間での葛藤から、暗黒の20代後半ファッション迷子話、実は正しい化粧の仕方がわからない告白まで、どーでもいいけど大切なアラサー女子のただただ話4コマ!

毎日新聞 2022/09/10

2014:8./ 124p
978-4-06-377041-4
¥618〔税込〕



給仕の室〜日本近代プレBL短篇選〜(中公文庫 ち8-12)

中央公論新社 編
中央公論新社

国木田独歩の少年物から山本周五郎の時代小説まで、1902〜49年に発表された「男性間の愛と絆」をテーマにした日本の短篇小説15篇を精選。現在のBL文化に至る想像力と表象の豊かな源流を辿るオリジナルアンソロジー。

毎日新聞 2022/09/10

2022:8./ 349p
978-4-12-207247-3
¥946〔税込〕





ラーゲリより愛を込めて(文春文庫 へ 1-5)

辺見 じゅん 著
文藝春秋

戦後のシベリア強制収容所で過酷な日々を過ごしながらも、家族や仲間を想い、生きる希望を持ち続けた山本幡男の生涯と夫婦愛を描く。辺見じゅん著「収容所から来た遺書」を原作とした映画のノベライズ。

毎日新聞 2022/09/10

2022:8./ 281p
978-4-16-791921-4

¥726〔税込〕



シンクロと自由(シリーズケアをひらく)

村瀬 孝生 著
医学書院

人としての時と場を失ってしまったのは、認知症のお年寄りではなく我々であるように思えてくる。老いと向きあう居場所づくりに取り組む著者が、自由と不自由が絡み合ったふしぎな話を綴る。テキストデータ引換券付き。

毎日新聞 2022/09/10

2022:7./ 285p
978-4-260-05051-7

¥2,200〔税込〕



住宅開発秘史～昭和の東京郊外～(光文社新書 1216)

三浦展 著
光文社

戦後、住宅難から発生した土地開発バブルによる悲喜こもごものドラマを経て郊外は発展していった。当時の不動産チラシ 140 枚をもとに首都圏各所の「夢の跡地」を訪ね、家と町の歴史を考証する新しい住宅史。

毎日新聞 2022/09/10

2022:8./ 357p
978-4-334-04623-1

¥1,056〔税込〕



李朝残影～反戦小説集～(光文社文庫 か 10-18)

梶山季之 著
光文社

京城で絵画教師をする野口は、妓生の踊る伝統の宮廷舞踊を描くことに奮闘するが...。日本統治時代の朝鮮で生まれ育った作家・梶山季之が、侵略と戦争に翻弄される個人の葛藤とその悲劇を鋭く描く。表題作をはじめ全 5 編を収録。

毎日新聞 2022/09/10

2022:8./ 363p
978-4-334-79402-6

¥924〔税込〕



家族。

カジサック (梶原 雄太) 著
ダイヤモンド社

「自分が輝ける場所」を探してきたけど、たどり着いたのは「家族」だった。漫才コンビ「キングコング」のカジサックが、半生を振り返りながらオカンの話、相方・西野亮廣の話、家族の話綴る。

毎日新聞 2022/09/10

2022:7./ 317p
978-4-478-11465-0

¥1,540〔税込〕





ヤバイ経済学～悪ガキ教授が世の裏側を探検する～ 増補改訂版

スティーヴン・D. レヴィット、スティーヴン・J. タブナー、望月 衛 著
東洋経済新報社

妊娠中絶合法化と犯罪減少の関係や、相撲の八百長など、若手経済学者のホープが、日常生活から裏社会まで、ユニークな分析で通念をひっくり返します。もっとヤバイ話題を大増量した増補改訂版。

毎日新聞 2022/09/10

2007:4/ 407,41p
978-4-492-31378-7

¥2,200〔税込〕



「捨てる」思考法～結果を出す 81 の教え～

出口 治明 著
毎日新聞出版

捨てるために必要なのは「悟り」ではなく「知識」、大事な決断ほど「熟慮」を捨てる、よく捨てよく得る取捨選択力は「本・旅・人」で養われる…。職種・業界を問わず一生役立つトレードオフの極意を伝える。

毎日新聞 2022/09/10

2022:8/ 269p
978-4-620-32748-8

¥1,760〔税込〕



寺山修司の百首～超新星の輝き～(歌人入門 5)

藤原龍一郎 著
ふらんす堂

森駈けてきてほてりたるわが頬をうずめんとするに紫陽花くらし わが息もて花粉どこまでとばすとも青森県を越ゆる由なし 寺山修司の短歌を百首取り上げ、一首ずつ丁寧に読みとく。巻末に解説も収録。

毎日新聞 2022/09/10

2022:6/ 203p
978-4-7814-1468-3

¥1,870〔税込〕



永田耕衣の百句～卑俗性を対象化する～

仁平勝 著
ふらんす堂

五七五の言葉がときにその意図を超えて飛躍し、読む者を魅了する永田耕衣の句。その作品を 100 句厳選し、解説文とともに紹介する。初句・季語索引付き。

毎日新聞 2022/09/10

2022:7/ 203p
978-4-7814-1492-8

¥1,650〔税込〕



本屋という仕事

三砂 慶明 編
世界思想社

本と人が集い、直接触れあえる場所、本屋。書店員は仕事に何を求め、自分の個性をどう生かし、どんな仕事をつくってきたのか。18 人の書店員が本屋の仕事を語る。鼎談、ブックリスト、書店マップも収録。

毎日新聞 2022/09/10

2021:6/ 215p
978-4-7907-1770-6

¥1,870〔税込〕





ランプ小屋の魔力～鉄道プチ煉瓦建築がおもしろい!～

笹田昌宏 著
イカロス出版

日本各地に現存する明治・大正のロマンを感じさせる煉瓦造りの「ランプ小屋」や、小規模な煉瓦アーチ橋などの「鉄道プチ煉瓦建築」にスポットを当て、その魅力やおもしろさを写真とともに紹介する。鑑賞のポイントも掲載。

毎日新聞 2022/09/10

2022:8./ 195p
978-4-8022-1191-8
¥2,200〔税込〕



村の公証人～近世フランスの家政書を読む～

ニコル・ルメートル 著
名古屋大学出版会

勤勉な農夫、貪欲な高利貸し、病を癒す魔術師…。宗教戦争を経て訪れたあらたな時代を記録した、近世フランスの家政書(経理の書)を調査研究。農村の公証人一族たちが生きた物質的・精神的世界とその変容を活写する。

毎日新聞 2022/09/10

2022:5./
10p,344p,17p
978-4-8158-1089-4
¥6,380〔税込〕



ヒトラーに傾倒した男～A 級戦犯・大島浩の告白～

増田剛 著
論創社

ナチス・ドイツに最も食い込んだ日本人と言われた A 級戦犯の元駐ドイツ大使・大島浩。発掘された肉声テープから、彼がいかにかヒトラーに傾倒し、国をミスリードしていったかを詳細に描く。NHK BS1 スペシャルを書籍化。

毎日新聞 2022/09/10

2022:7./ 13p,172p
978-4-8460-2187-0
¥2,200〔税込〕



物語のカギ～「読む」が 10 倍楽しくなる 38 のヒント～

渡辺 祐真/スケザネ 著
笠間書院

読書という旅を豊かにするガイドブック。物語の基本的な仕組みから、もっと深く読むための視点、自分の人生経験を投影してみる個人的な方法、能動的な読みの工夫まで、物語をもっと味わえるようになる「カギ」を紹介する。

毎日新聞 2022/09/11

2022:8./ 327p
978-4-305-70965-3
¥1,980〔税込〕



女の子がいる場所は(BEAM COMIX)

やまじえびね 著
KADOKAWA

女子高に通う雛子の家は、マンションの 11 階にある 4 L D K。暇さえあれば寝てしまふ雛子、一風変わった弟の真人、最近変な受け答えをするようになった祖母。ぎりぎりまで保たれていた家族の均衡が崩れだして……。

毎日新聞 2022/09/17

2022:6./ 199p
978-4-04-737096-8
¥814〔税込〕





言葉の展望台

三木 那由他 著

講談社

アイデンティティと一人称、人々をつなげる言葉、誠実な謝罪と不誠実な謝罪…。難しくて切実で面白い「言葉とコミュニケーション」を、「哲学」と「私」のあいだのリアルな言葉で綴ったエッセイ集。『群像』掲載を書籍化。

毎日新聞 2022/09/17

2022:7./ 157p
978-4-06-528345-5

¥1,430〔税込〕



本を読んだら散歩に行こう

村井 理子 著

集英社

認知症の義母の介護、双子の息子たちの受験、長引くコロナ禍…。人気翻訳家が贈る、悲喜こもごもの現在と過去をめぐるエピソード&読書案内。『よみタイ』連載を改題、加筆修正し書籍化。

毎日新聞 2022/09/17

2022:6./ 229p
978-4-08-788078-6

¥1,650〔税込〕



孤蝶の城

桜木 紫乃 著

新潮社

秀男はモロッコで手術を受け、日本で初めて「女の体」を手に入れるが、やがて追い詰められていき…。自己と闘う思春期を描いた「緋の河」に続き、世間と闘う激動期を活写する。『小説新潮』連載を書籍化。

毎日新聞 2022/09/17

2022:5./ 472p
978-4-10-327726-2

¥2,090〔税込〕



私の文学史〜なぜ俺はこんな人間になったのか?〜(NHK出版新書 681)

町田 康 著

NHK出版

独特な文体・語法と奇想天外な物語でヒット作を多発してきた作家・町田康の文学世界はいかにして生まれ、進化してきたのか。創作の裏側や時代背景、強い影響を受けた文学作品や音楽・浪曲・落語などについて語る。

毎日新聞 2022/09/17

2022:8./ 248p
978-4-14-088681-6

¥968〔税込〕



ギフトッド

鈴木 涼美 著

文藝春秋

歓楽街に暮らすホステスの「私」は、重い病に侵された母を引き取り看病し始める。濃厚な死の匂いの立ち込める中、脳裏をよぎるのは、自ら命を絶った女友達のことだった。第167回芥川賞候補作。『文學界』掲載を単行本化。

毎日新聞 2022/09/17

2022:7./ 118p
978-4-16-391572-2

¥1,650〔税込〕





台北野球倶楽部の殺人

唐 嘉邦 著
文藝春秋

日本統治下の台湾。野球愛好家の集まり「球見会」の会員2名が殺された。その頃、台湾球界の逸材・大下弘を巡ってスカウト合戦が繰り広げられていた。果たして事件の動機は-。台湾人と日本人の刑事コンビが難事件に挑む!

毎日新聞 2022/09/17

2022:8./ 255p
978-4-16-391586-9
¥1,760 [税込]



僕は死なない子育てをする〜発達障害と家族の物語〜

遠藤 光太 著
創元社

23歳で結婚し、父になってから発覚した発達障害。けれど「未来は大丈夫だ」と信じようとした-。TV番組にも出演する人気ライター-の、発達障害当事者による育児ドキュメンタリー。『withnews』など掲載を加筆修正。

毎日新聞 2022/09/17

2022:7./ 253p
978-4-422-93095-4
¥1,870 [税込]



日本商人の源流〜中世の商人たち〜(ちくま学芸文庫 サ51-1)

佐々木 銀弥 著
筑摩書房

中世の個々の商人像にスポットライトをあてつつ、経済全体の流れについても解説した商業史の入門書。朝廷に仕えた供御人、行商人、都市の定住商人、戦国の豪商など、さまざまな商人のしたたかな営業活動を描く。

毎日新聞 2022/09/17

2022:6./ 267p
978-4-480-51122-5
¥1,210 [税込]



当事者は嘘をつく

小松原 織香 著
筑摩書房

「私の話を信じてほしい」傷を抱えて生きていくために、ジャック・デリダ、田中美津、渡辺京二らのテキストと格闘し...。性暴力の被害経験を引きずりながら生きるなかで見た風景を描いたノンフィクション。

毎日新聞 2022/09/17

2022:1./ 204p
978-4-480-84323-4
¥1,980 [税込]



入管問題とは何か〜終わらない<密室の人権侵害>〜

鈴木 江理子/児玉 晃一 著
明石書店

日本には、正規滞在が認められない外国人を収容する入管収容施設がある。収容の可否に司法は関与せず、無期限収容も追放も可能。入管収容施設が持つ「暴力性」に対抗する論考やコラムを収録し、不法な外国人への眼差しに迫る。

毎日新聞 2022/09/17

2022:9./ 297p
978-4-7503-5448-4
¥2,640 [税込]





アンビルト～実現しなかった建築プロジェクト～

クリストファー・ブーンランド 著
グラフィック社

ル・コルビュジエ、丹下健三など、有名建築家たちが設計したが、実現されなかった建物や構想、都市計画を集めたビジュアルブック。図面や地図、イメージパースなど100点以上の図版とともに紹介する。

毎日新聞 2022/09/17

2022:8./ 207p
978-4-7661-3601-2
¥4,180〔税込〕



スイミー スイミー～ちいさなかしこいさかなのはなし～

レオ・レオニ 著
好学社

小さな黒い魚スイミーは、広い海で仲間と暮らしていました。ある日、なかまたちがみんな大きな魚に食べられてしまい、一匹のこったスイミーは…。

毎日新聞 2022/09/17

1979:1./ 1冊
978-4-7690-2001-1
¥1,650〔税込〕



伽羅を焚く

竹西寛子 著
青土社

広島の被爆者としての、国策への懐疑、不満、さらには怒り。93年の生涯をかけて「言葉」に関わってきた著者が、為政者の口説に失望をしながら、それでも書き留め続けた渾身のエッセイ集。『ユリイカ』連載を書籍化。

毎日新聞 2022/09/17

2022:8./ 259p
978-4-7917-6978-0
¥2,420〔税込〕



七十人訳ギリシア語聖書 詩篇

秦剛平 著
青土社

ダビデからマカベア期までの期間につくられたとされる150篇の詩篇群。成立以来、早い時期からさまざまな言語に訳された。メシア思想の核心が描かれ、ユダヤ・キリスト教の文化や思想に影響をあたえた重要書。

毎日新聞 2022/09/17

2022:7./ 524p,15p
978-4-7917-7489-0
¥8,580〔税込〕



昭和天皇拝謁記～初代宮内庁長官田島道治の記録～<5> 拝謁記

田島 道治／古川 隆久／茶谷 誠一／富永 望／瀬畑 源／河西 秀哉／舟橋 正真／NHK 著
岩波書店

昭和天皇の生々しい肉声が明かされる-。連合国軍による占領から独立回復に至るまで、初代宮内庁長官田島道治によって書きとめられた、現代史の第一級史料。5は、昭和28年5月～28年12月の拝謁記を収録。

毎日新聞 2022/09/24

2022:8./ 9p,320p
978-4-00-026595-9
¥3,300〔税込〕





空爆論～メディアと戦争～(クリティーク社会学)

吉見 俊哉 著
岩波書店

支配し、侵略し、殺害する「上空からの眼差し」としての空爆は、第一次世界大戦や日本空爆、朝鮮空爆などを経て、いかに変容していったのか。2つの大戦からウクライナ侵攻まで、「メディア技術としての戦争」を問い直す。

毎日新聞 2022/09/24

2022:8./ 7p,258p
978-4-00-027177-6

¥2,530〔税込〕



日常生活の精神病理(岩波文庫 33-642-1)

フロイト 著
岩波書店

よく知っているはずの画家の名前が想い出せない。ありえない言い違いや読み違いをしてしまう。日常のささやかな度忘れや失錯の奥に潜む、思いもかけない想念や欲望とは。フロイトの著名な一作に十全な注と事例の一覧を付す。

毎日新聞 2022/09/24

2022:6./ 572p,33p
978-4-00-336429-1

¥1,584〔税込〕



師匠、御乱心!(小学館文庫 さ 30-1)

三遊亭 円丈、三遊亭 円丈 著
小学館

昭和53年、名人・三遊亭円生が、落語協会の方針に異を唱え、一門を率いて協会を脱退した。弟子たちに広がる疑心暗鬼、崩壊する師匠との絆…。落語界の一大騒動を内側から描く。後日譚、三遊亭円楽・小遊三との鼎談も収録。

毎日新聞 2022/09/24

2018:3./ 317p
978-4-09-406499-5

¥770〔税込〕



サイレント・アース～昆虫たちの「沈黙の春」～

デイヴ・ゲールソン 著
NHK出版

集約農業や森林伐採による生息域の減少や急激な気候変動も加わり、昆虫の存在は危機に瀕している。昆虫をこよなく愛する昆虫学者が、地球の未来を守る具体的な行動指針を示す。

毎日新聞 2022/09/24

2022:8./ 403p,27p
978-4-14-081910-4

¥2,750〔税込〕



橋の上で

湯本 香樹実 著
河出書房新社

学校帰り、ぼくは橋の上で川の水を見ていた。いまここから川にとびこんだらどうなるだろうって考えながら。そこに雪柄のセーターのおじさんがあらわれ、ふしぎなことを教えてくれて…。

毎日新聞 2022/09/24

2022:9./ 1冊(ページ
付なし)

978-4-309-29208-3

¥1,650〔税込〕





誰も書かなかった玉城デニーの青春～もう一つの沖縄戦後史～

藤井誠二 著
光文社

ミックスルーツ、伝説の高校生ロックバンド、友人たち、福祉への志、人気DJ、そして政治の道へ…。沖縄県知事・玉城デニーの半生を、数多くの同時代を生きた友人や知人の「語り」と合わせて辿る。

毎日新聞 2022/09/24

2022:8./ 316p
978-4-334-95322-5

¥1,760〔税込〕



文にあたる

牟田 都子 著
亜紀書房

書物へのとまらない想い、言葉との向きあい方、仕事に取りくむ意識…。<本を読む仕事>という天職に出会って10年と少し。無類の本読みでもある校正者が、本の読み方、本とのつき合い方、本への思いのたけを綴る。

毎日新聞 2022/09/24

2022:8./ 255p
978-4-7505-1754-4

¥1,760〔税込〕



現代ロシア演劇～ソ連邦崩壊からパンデミックとウクライナ侵攻まで～(水声文庫)

岩田 貴 著
水声社

ソ連邦崩壊による束の間の自由を謳歌した後、再び強まる文化統制の流れに直面する演劇人たちは、いかに演劇を続け、いかなる表現を追求したのか。演劇大国ロシアの勃興する諸潮流と激動の30年間を解き明かす。

毎日新聞 2022/09/24

2022:6./ 318p
978-4-8010-0643-0

¥3,520〔税込〕



パピルスが語る古代都市～ローマ支配下エジプトのギリシア人～

ピーター・パーソンズ 著
知泉書館

オキシリンコス・パピルス解読の第一人者が、大量の出土史料を駆使して、当時の社会と文化を余すことなく描いたパピルス学の入門書。各章に訳者による要約も掲載する。

毎日新聞 2022/09/24

2022:8./ 16p,486p
978-4-86285-368-4

¥5,500〔税込〕



杉原千畝とスターリン～ユダヤ人をシベリア鉄道へ乗せよ!ソ連共産党の極秘決定とは?～

杉原 修 編
石郷岡 建 著
五月書房新社

なぜ杉原千畝は「命のビザ」を発給したのか。なぜソ連はユダヤ難民のシベリア横断を許したのか。「命のビザ」発給に行き着いた背景や事実、ソ連情報を整理し、スターリンと杉原の繋がりやイスラエル建国にまつわる史実に迫る。

毎日新聞 2022/09/24

2022:9./ 414p
978-4-909542-43-4

¥3,850〔税込〕





職業作家の生活と出版環境～日記資料から研究方法を拓く～

和田 敦彦 著

文学通信

日記資料を文学研究に活用していく手法やその可能性を検討。榛葉英治の日記を取り上げ、流行や出版環境、経済状況といった「不純な」要因と関係し合ったものとして、作家や小説の価値、小説を書くという営みをとらえる。

2022:6./ 281p
978-4-909658-82-1

¥2,970〔税込〕



毎日新聞 2022/09/24